

第2編

地域別構想

1. 地域別構想とは

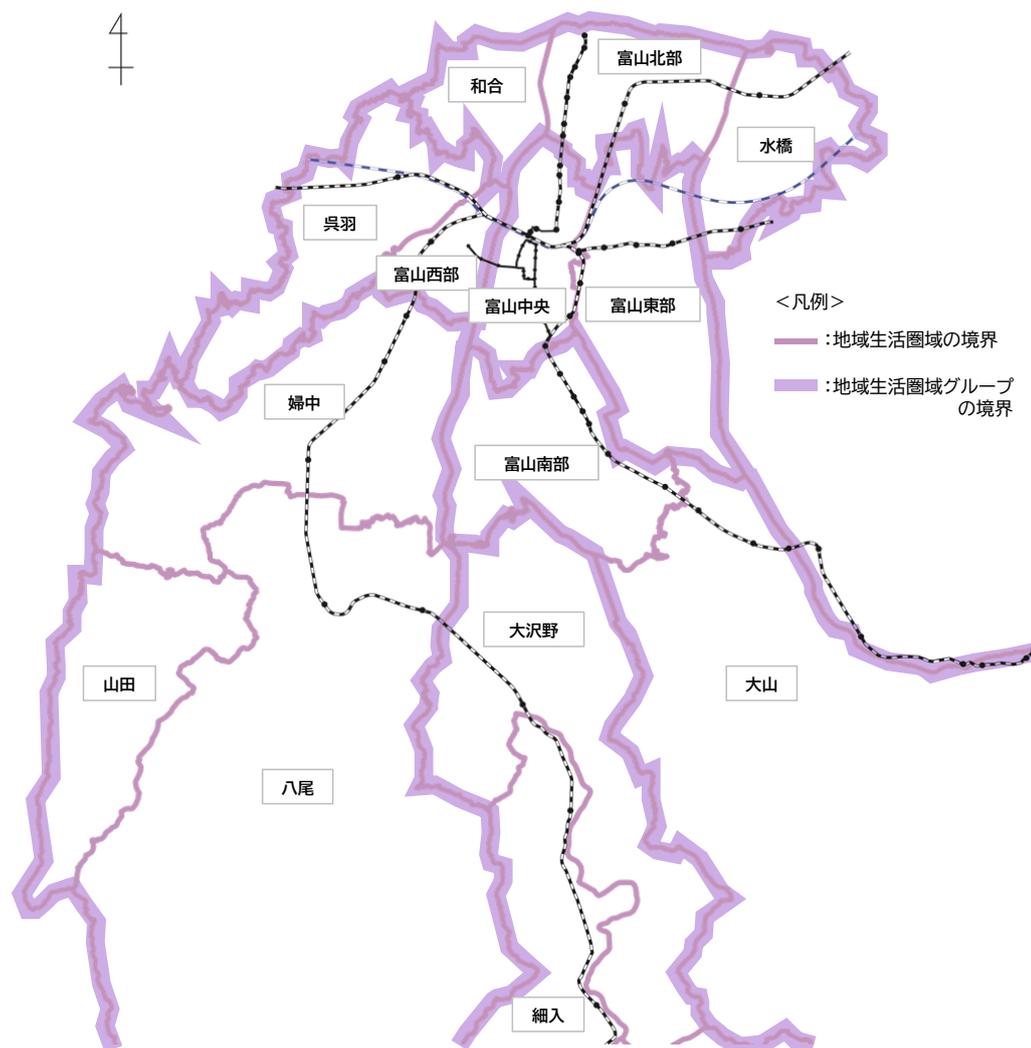
1) 地域別構想とは

地域別構想は、全体構想に示された取組方針等を受け、各地域の現状や課題に対応したまちづくり目標を設定し、それを実現するためのまちづくり方針を明らかにするものです。地域別構想の策定にあたっては、各地域の現況特性や全体構想における位置づけ、市民アンケート結果を踏まえつつ、市民ワークショップで出されたアイデア等を参考としながら、地域のまちづくり目標やまちづくり方針を設定します。

2) 地域区分

地域別構想における地域区分は、前計画を踏襲して14地域に設定します。なお、市民の生活行動（買い物、通勤・通学や通院）を参考に、つながりが強い地域をグループとして整理します。

■地域生活圏域(再掲)



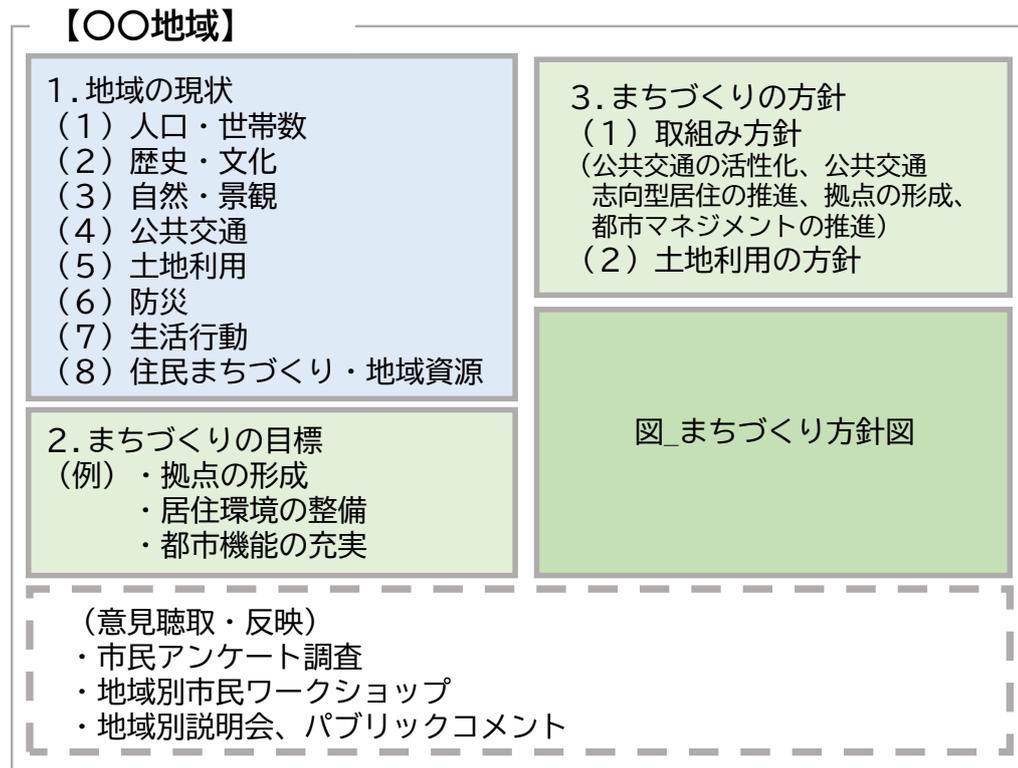
3) 地域別構想の役割

地域別構想は、2つの役割が期待されます。

①行政施策の地域別指針として、主に地域の都市基盤整備の基本方針としての活用

②地域住民のまちづくり活動の基本的な指針としての活用

4) 地域別構想の見方



2. 地域別構想

第1章 富山中央地域

第2章 富山北部地域

第3章 和合地域

第4章 呉羽地域

第5章 富山西部地域

第6章 富山南部地域

第7章 富山東部地域

第8章 水橋地域

第9章 大沢野地域

第10章 大山地域

第11章 八尾地域

第12章 婦中地域

第13章 山田地域

第14章 細入地域

第1章 富山中央地域

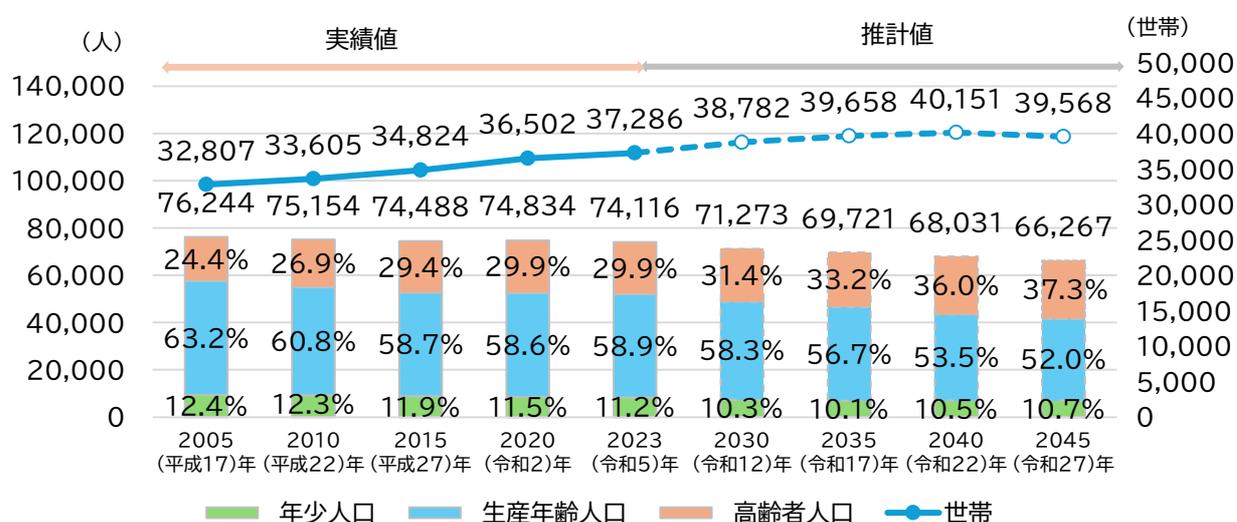
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、74,116人と14地域内で2番目に多い地域ですが、高齢化率29.9%と14地域内で5番目の低さです。また、世帯数は、37,286世帯となっています。

将来推計では、人口は減少しますが、世帯数は2040年ころまで増加する見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、日枝神社や護国神社をはじめとする寺社仏閣に加え、郷土博物館や池田屋安兵衛商店、ガラス美術館などが立地し、歴史・芸術文化の拠点となっています。

また、富山駅北側には、治水の歴史を学ぶことができる富岩運河や国の重要文化財に指定されている中島閘門があります。

(3) 自然・景観

市街地を流れる松川・いたち川は、桜の名所として市民に親しまれ、まちなかの潤い空間となっています。城址公園をはじめ、稻荷公園や布瀬南公園、神通川緑地は、自然を身近に感じることができる市民の憩いの場となっています。

また、シンボルロードである城址大通り等には、通りを美しく彩るバナーフラッグ（垂れ幕）とハンギングバスケット（花かご）を設置し、魅力ある都市景観を創出する等、質の高い景観形成を図っています。

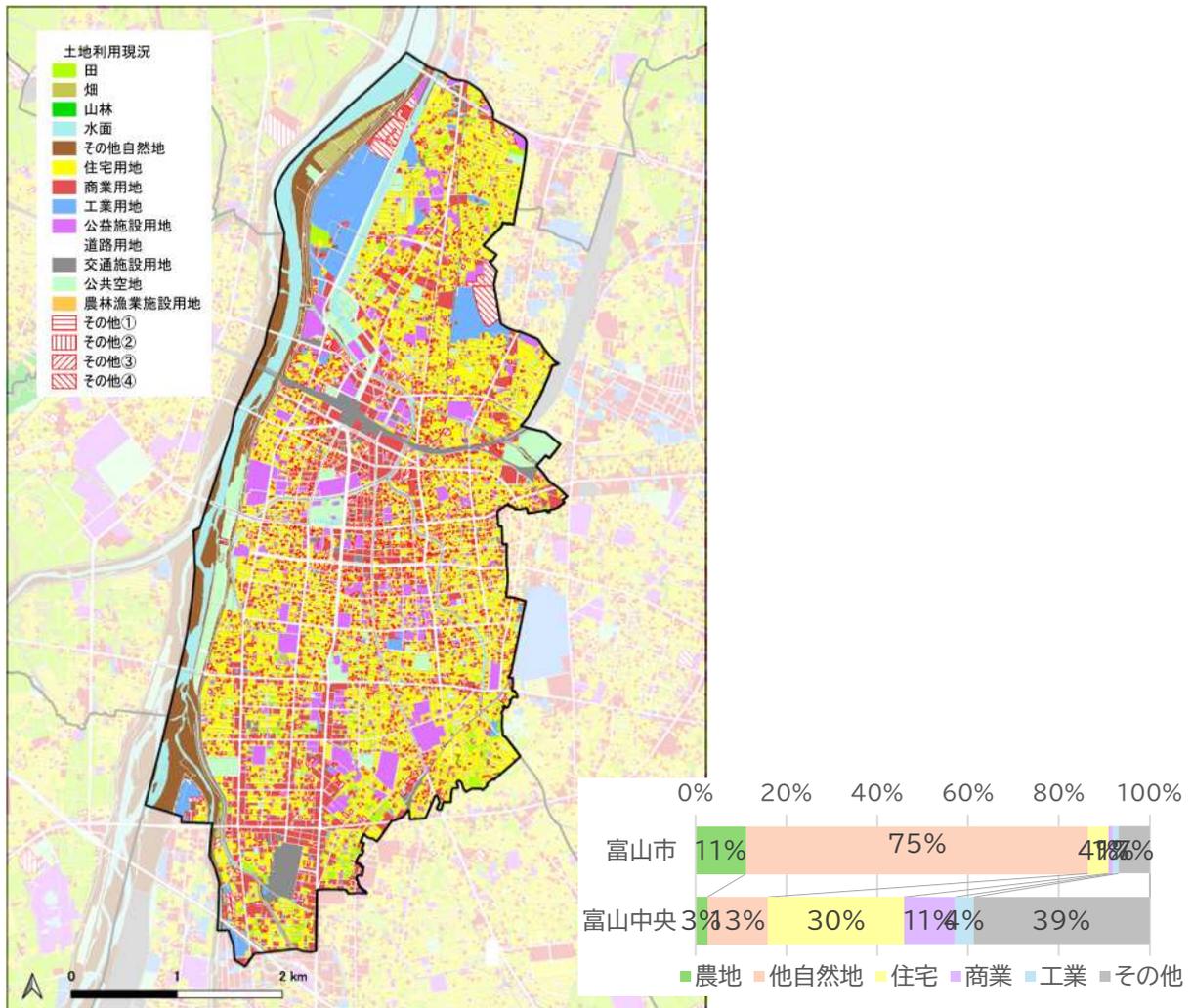
(4) 公共交通

鉄軌道及びバス路線の徒歩圏が地域の大部分をカバーしており、公共交通の利便性が高く、商業、金融及び医療などの多様な生活利便施設にアクセスできる環境にあります。

(5) 土地利用

都市的土地利用が最も進んでいる地域であり、住宅用地及び商業用地の割合が高くなっていますが、低未利用地が地域全域に点在しています。都心地区や幹線道路沿線では、主に商業用地が分布していますが、それ以外の地域では、住宅用地とその他の用途が混在しています。また、富岩運河沿いには、工業用地が広がっています。

■土地利用現況と面積比率



(6) 防災

富山駅をはじめ、多くの都市機能が集積する地域ですが、旧河道などの地形条件もあり、洪水等の豪雨を起因とした災害の影響を広く受けるため、避難所等の防災拠点の充実や住民の防災意識の向上等を図り、避難等の確実性を高めるとともに、被害の回避に向けた土地利用対策を推進する必要があります。

(7) 生活行動

市民の日常的生活行動は、約8割が自地域内で日常生活的な買い物や通院をされ、通勤・通学やその他の買い物についても、5割程度は地域内で行われています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

都心地区を中心にマンションが立地し、子育て世代を含め転入者が増加していますが、住民のまちづくり活動を進める上で、新旧住民のコミュニケーションを活性化させるなど、コミュニティを持続していくための取組が必要です。

また、地域にある自然・文化・観光資源を有効に活用するための情報発信や魅力を維持・向上させるための取組が必要です。

■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・小中学校、高校が立地する文教地区
- ・都心で歴史文化を感じる豊かな暮らし
- ・医療、高齢者施設等、生活利便性が高い
- ・観光スポットなどの施設が集積
- ・豊かな水の恵みや桜並木の四季を感じられる
- ・まちなかの公共交通が充実

【20年後の地域の将来イメージ】

おしゃれ、スマート、ぼっぴー / 若い女性が住みやすいまち
歩ける、歩きたくなるまち=安全、楽しい、住み続けたいまち

2 まちづくりの目標

i) 富山駅周辺における南北一体的なまちづくり

連続立体交差事業による富山駅付近の在来線の高架化に引き続き取組み、富山駅周辺における円滑な交通の確保と交通結節機能の強化を図るとともに、南北一体的なまちづくりを促進します。また、これまでに整備された駅前広場や自由通路などを有効に活用しながら、県都の玄関口としての機能と魅力を高めます。

ii) 都心コアエリアにおける人中心の快適で賑わいのある拠点の形成

富山駅周辺から城址公園周辺を経て、大手モール周辺や総曲輪地区に至る市街地を都心コアエリアと位置づけ、徒歩や公共交通での移動により、安全・安心、快適に回遊することができる賑わいの拠点づくりを進めます。

iii) 公共交通の利便性や都市機能のストックを活かした住みよいまちづくり

路面電車電車の利便性の向上に併せて、都心地区での居住の誘導を図るとともに、商業をはじめとした生活関連機能、教育環境、高度な医療・福祉の充実など、居住環境の魅力を高めることにより、多様な住まい方を選択できる、まちなか居住の推進を図ります。

iv) 水と緑の資源を活かした潤いのある都心空間の形成

都心地区の水と緑の資源である松川・いたち川、城址公園、富岩運河環水公園等を活かした憩いの場や、住む人、街を訪れる人が快適に歩くことのできる歩行空間の整備、本市の顔としての景観づくりなどにより、潤いのある都心空間の形成を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山駅を起点とした鉄軌道（あいの風とやま鉄道線、富山地方鉄道本線、不二越・上滝線、富山港線及び市内電車）の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・ 富山駅周辺では、交通結節機能の強化を図るため、（都）富山駅横断東線や（都）堀川線等の整備を推進します。 ・ 路面電車の環状運行区間の停留場は、重点的にバリアフリー化や上屋設置などを進め、利用者の利便性・快適性の向上を図ります。 ・ 南富山駅では、駅前広場や駅関連施設の整備による鉄道と路面電車等の交通結節機能の強化と乗継利便性を高めることにより、各地域とのアクセス性と利用環境の向上を図ります。また、駐輪場の充実等により、利用圏域の拡大を図ります。 ・ 都市コアエリアの回遊性を高めることができるよう、「まいどはやバス」等の市民生活を支えるバス路線のサービス維持を図ります。 ・ 路面標示による自動車から分離された走行空間の確保など、自転車利用環境の改善を図ります。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）での都市の再構築（リノベーション）の促進により、まちなか居住及び公共交通沿線居住の推進を図ります。 ・ 都心コアエリアでは、市街地再開発事業等による居住環境整備を促進します。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都心コアエリアでは、再開発等の促進により、賑わい創出につながる機能の更新・充実を図るとともに、道路等の公共空間と民間施設が一体となって、快適に楽しく回遊できる、ウォークアブルな空間づくりに取り組めます。 ・ 富山駅周辺や中心商店街では、既存の都市空間（広場や道路、低未利用地）を賑わいづくりの場として活用する等、官民連携のもと、県都の玄関口にふさわしい都市空間の形成を図ります。 ・ 城址公園や富岩運河環水公園は、富山らしさを象徴する公園としてとして充実に向けた取組を推進します。 ・ 市民の憩いの場となっている神通川緑地を核として、スポーツ・レクリエーション拠点の形成を図ります。 ・ 旧小学校跡地などの公有地を活用した新たな都市機能を整備します。

<p>都市 マネジメント の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な道路・橋梁の整備や管理の実現に向けて、（都）五艘大泉線の神通大橋の更新を行います。 ・上水道施設の耐震化をはじめとする危機管理体制の強化を図ります。 ・松川・いたち川は環境整備により親水性を高めるとともに、沿川の建物とあわせ、魅力ある水辺空間の形成を図ります。 ・都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）下新西町上赤江線や（都）呉羽町袋線等の整備を推進します。
------------------------------	--

（２）土地利用の方針

<p>商業系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山駅周辺～総曲輪地区にかけた市街地は、都心コアエリアを担う広域商業地区として位置付けます。再開発や中心商店街の整備等を進めながら、中核的な商業施設を誘導するとともに、集客力のあるスポーツ・レクリエーション機能や、教育文化、業務、医療、福祉などの多様な機能を誘導し、まちなかの賑わいや魅力の向上を図ります。また、商業等の生活関連機能の集積を活かしたまちなか居住を推進します。 ・都心地区から放射状に伸びる幹線道路や環状道路である（都）草島東線等の沿道は、沿道商業地区として位置付け、沿道商業機能の適正な立地を図ります。
<p>産業系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富岩運河西側や下奥井駅東側の既存工業地は、工業地区として位置付けるとともに、将来、土地利用の転換が発生する場合には、周辺を考慮した土地利用の見直しを行います。 ・富山市公設地方卸売市場周辺は、流通業務地区として位置付け、流通業務に関連した店舗や事業所等の誘導を図ります。
<p>住宅系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の北部、南部、神通川沿い等は、住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。 ・富山港線沿線や南富山駅周辺等は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 ・広域商業地区の周辺や富山市公設地方卸売市場の南側等は、複合用途地区として位置付け、商業・業務と居住との調和がとれた住宅地として形成します。 ・地域の大半が居住誘導区域であり、都心地区や公共交通の活性化と併せて居住の誘導を図ります。 ・質の高い住宅建設や良質な住宅取得への支援を図ります。

第2章 富山北部地域

1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、38,459人と減少し、高齢化率が32.3%となっています。また、世帯数は、16,921世帯となっています。将来推計では、人口は減少し、増加していた世帯数も減少に転じる見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

沿岸部では、富山港や3つの運河（岩瀬、富岩、住友）が整備され、水上ラインや遊歩道での散策等により、気軽に水辺に親しむことができます。

また、岩瀬地区には、森家や馬場家などの文化財をはじめ、明治期に建てられた建物が歴史的街並みを形成しており、歴史文化の学習拠点となっています。さらに、地域のつながりを強める、地域固有の祭りも行われています。

(3) 自然・景観

海岸沿いには、海水浴場やキャンプ場があり、マリンスポーツや散策を楽しむことができるほか、富山市民球場や東富山運動広場などのスポーツ施設も充実しています。

地域内には、富山湾、神通川、常願寺川、豊かな田園地帯があり、立山連峰を一望することができます。また、豊富な地下水を活用した温泉施設も集積しています。

沿岸エリアでは、豊富な水産物やアクティビティがある一方、より富山湾の魅力を高める環境の充実やPRの強化が課題となっています。

(4) 公共交通

富山港線の各駅やあいの風とやま鉄道線の東富山駅が立地し、富山港線に接続するフェイダーバスなどの路線バスが運行しています。

(5) 土地利用

富山港線沿線や国道8号沿い、東富山駅周辺を中心に、住宅と商業用地が混在した市街地が広がっています。運河周辺やエコタウンには、大規模な企業団地が整備され、工業用地が広がっています。また、富山港線沿線で小規模な低未利用地が存在しています。

畑や水田などの農地が地域の3割、住宅用地が地域の2割を占めており、市平均と比較すると割合が高くなっています。

(6) 防災

氾濫平野と臨海部に形成された木造住宅の密集地や住宅地等であり、要配慮者施設も多く、洪水等の豪雨を起因とした災害の影響や地震時の津波の影響を受けるため、地域主体の防災行動の強化等により避難等の確実性を高めるとともに、被害の回避に向けた土地利用対策の推進が必要です。

(7) 生活行動

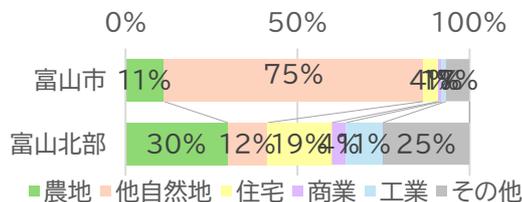
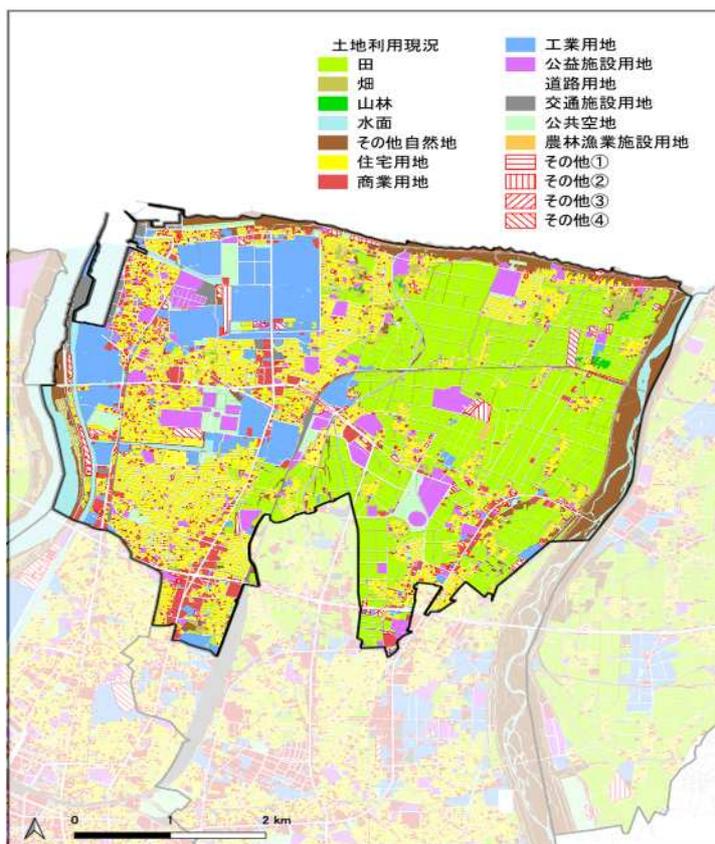
市民の日常的生活行動は、買い物の約8割、通院の6割以上が自地域内で行っていますが、通勤・通学や文化・スポーツは約3割程度となっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

子どもの減少により、地域のつながりを強めている祭りなどの存続が難しくなる中、世代を超えた交流の場の創出、増加する新規居住者を受け入れる地域づくりが必要となっています。

また、地域資源の魅力を維持・創出するため、地域内外に向けた情報発信や学校など既存施設の利活用、空き家を活用した移住ニーズの受け皿づくりなどの取組が必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・岩瀬のまちなみ、岩瀬漁港
- ・交通の利便性が高い(鉄軌道、バス、水上ライン)
- ・東富山駅周辺のスポーツ施設の集積
- ・海、山、川、田園の風景と景色
- ・レジャー施設、富山湾岸サイクリングコース
- ・銭湯、温泉の集積
- ・安全安心で住みやすい住環境

【20年後の地域の将来イメージ】

海を五感で楽しみ 住み良い街

2 まちづくりの目標

i) 歴史・文化資源と富山港線を活かした観光等の地域振興

岩瀬大町・新川町通りは、港町街並み拠点として、歴史的街並みを活かした観光客の誘導を図ります。富岩・岩瀬・住友の3運河一帯を「潤いと活気に満ちた魅力あるウォーターフロント」として整備を促進します。富山港線と富岩運河や岩瀬運河、岩瀬大町・新川町通り、岩瀬カナル会館等を活かした観光客の誘導を図ります。

ii) 富山港線の活性化に併せた生活拠点の形成

富山港線沿線の地域は、公共交通沿線での居住を推進する地区として、安全・安心でゆとりある良好な居住環境の維持・向上を図ります。

特に、東岩瀬駅周辺から萩浦小学校前駅周辺に至る市街地は、富山港線の活性化と併せて、生活サービスの維持・充実や駅へのアクセス環境の改善など、生活拠点として形成を図ります。

iii) 岩瀬漁港や岩瀬浜海岸等を活かした海辺のレクリエーションの場の形成

海岸部やその周辺の植生など海岸環境の保全・再生を図るとともに、岩瀬漁港や岩瀬浜・浜黒崎の海水浴場やキャンプ場、温浴施設、立山を仰ぐ眺望景観など、海辺の資源を活かし、和合地域や水橋地域とのつながりを意識した、海辺のレクリエーションの場の形成に努めます。

iv) あいの風とやま鉄道線の活性化に併せた東富山駅・新富山口駅周辺まちづくりの推進

東富山駅周辺や新富山口駅周辺は、公共交通沿線での居住を推進する地区として、居住環境の形成や改善に向けたまちづくりを推進します。

東富山駅周辺は、岩瀬スポーツ公園や東富山運動広場、富山温水プール、富山市民球場（アルペンスタジアム）など、拠点的なスポーツ施設の玄関口となるまちづくりを推進します。

v) 富山港周辺の産業集積の維持・充実

国際拠点港湾に指定されている富山港を活かした工業や物流関連産業ほか、エコタウン産業団地等は、本市の産業・経済活動の一翼を担う産業集積として維持・充実を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組の方針

<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none">・あいの風とやま鉄道線及び富山港線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。・東富山駅では、アクセス道路として（都）東富山駅前線を整備します。また、バスとの連携強化やパーク&ライド駐車場の整備による利用圏の拡大を図るとともに、拠点的なスポーツ・レクリエーション施設へのアクセス環境の向上について検討します。・新富山口駅では、開業後の駅周辺交通量や駅の利用状況を注視し、サービス水準の充実に努めます。・富山港線に接続するフィーダーバスは、今後もサービス水準の維持に努めます。あわせて、蓮町駅や岩瀬浜駅での乗り換え利便性の向上について検討します。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none">・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の都市リノベーションの促進により、公共交通沿線居住の推進を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none">・東岩瀬駅から菽浦小学校前駅周辺では、最寄り品の小売業や金融機関、病院、公共施設などが充実した日常生活に欠かせない生活拠点の形成を図ります。・東岩瀬駅の周辺となる岩瀬大町、新川町通りは、歴史的建造物の保全・活用を通じて、歴史的な街並み景観を形成し、市民の余暇や来街者の観光を目的とした都市活動を生み出します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none">・持続可能な道路の整備や管理の実現に向けて、臨海工業地帯と都心地区を連絡する（都）東岩瀬線を整備します。・上水道施設の耐震化をはじめとする危機管理体制の強化を図ります。・岩瀬浜海岸、浜黒崎海岸の一带では、岩瀬漁港や海水浴場、キャンプ場、温泉や飲食店等の地域資源を連携するレクリエーション拠点の形成に努めます。・大村海岸や浜黒崎海岸での白砂青松の再生など海岸環境の保全を図るとともに、老朽化が進む離岸堤の改良整備など海岸保全施設を整備します。・良好な住環境形成に向けて、近隣公園である森公園や下富居公園を整備します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、(都) 富山高岡8号バイパス線における豊田新屋立体交差事業等の整備を推進します。 ・ 地域による空き地・空き家の適正管理や有効活用を促進し、安全・安心な良好な住環境の維持を図ります。 ・ 家屋が密集した市街地では、歴史的街並み景観の形成に配慮しつつ、不燃化建物への建て替え誘導など、火災に強いまちづくりに努めます。 ・ 洪水や沿岸部での津波・高潮といった災害ハザードに備え、水被害に強いまちづくりに努めます。
--	---

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生活拠点である東岩瀬駅周辺から萩浦小学校前駅周辺は、地域商業地区として位置付け、富山港線の活性化と併せて、最寄り品小売業や金融機関、公共施設の充実を図ります。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨海部や運河沿いの既存工業地は、工業地区として位置付け、重化学工業や大規模工場を主体とした産業集積を図ります。また、エコタウン産業団地では、資源循環施設の誘導に努めます。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住友運河以南は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。 ・ 住友運河以北は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 ・ 臨海部等の工業地区の周辺は、複合用途地区として位置付け、生産機能と関連する流通業務やサービス機能と居住との調和がとれた住宅地として形成します。 ・ 公共交通沿線居住の推進地区である富山港線沿線では、富山港線の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。 ・ 空き地や空き家の適正な管理や有効活用を通じて、安全・安心な住環境の維持・活性化を促進します。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の東部に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・ 浜黒崎、田畑、下飯野等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。

第3章 和合地域

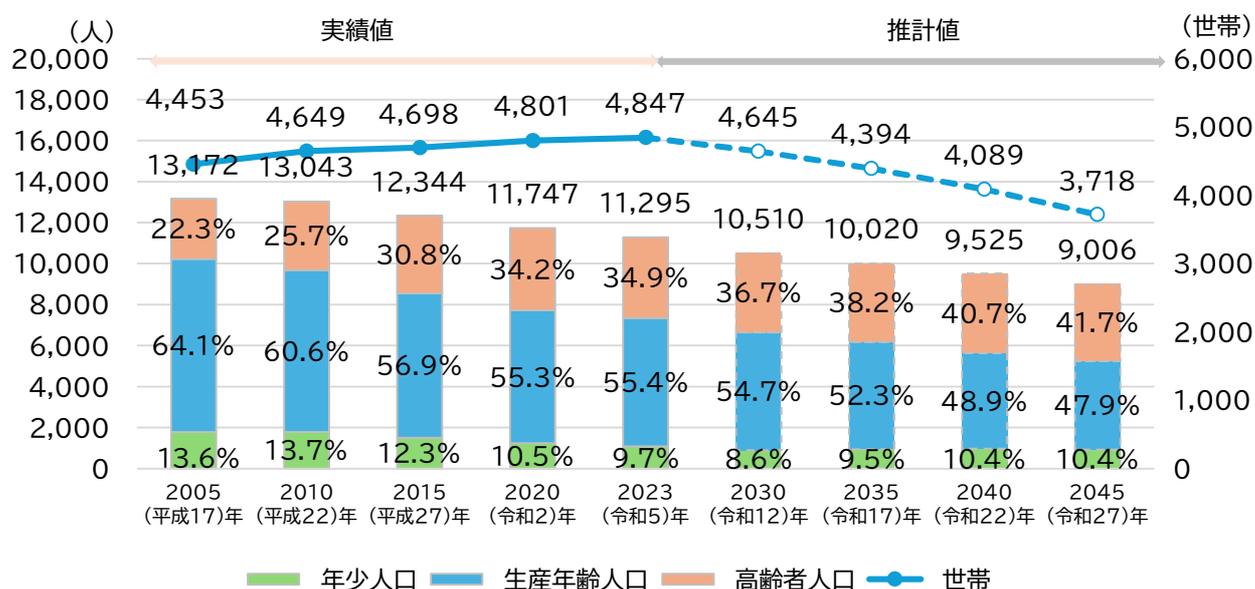
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、11,295人と減少しており、人口構成は、高齢化率が35%と高くなっています。また、世帯数は、4,847世帯と高止まりとなっています。

将来推計では、人口、世帯数ともに減少の見込みとなっています。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

沿岸部では、四方漁港が県内有数の漁港として知られ、その周辺には、寺社が立地する港町の街並みが形成されています。また、富山湾をはじめ、神通川などの豊かな水辺空間に恵まれており、海水浴場や海浜公園では、マリンスポーツや散策が楽しめます。

南部には、江戸時代の豪農の屋敷で、国の文化財として指定されている「内山邸」があり、四季折々の風情を感じることができます。

(3) 自然・景観

ブランド米である八町米の産地で、きれいな田園風景が創出されています。また、豊富な地下水があり、沿岸部では古くから温泉が集積しています。

地域内には、富山湾、神通川、豊かな田園地帯があり、立山連邦を一望することができます。

海岸エリアでは、豊富な水産物やアクティビティがある一方、より富山湾の魅力を楽しめる環境の充実やPRの強化が課題となっています。

(4) 公共交通

富山港線に接続するフィーダーバスなどの路線バスが運行しています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である和合コミュニティセンター周辺を中心に、住宅と商業が混在した旧市街地が広がっていますが、近年は歯抜け状態で空き家が発生し、市街地環境の維持が課題となっています。

北東には工業用地や公共空地が広がり、大規模工場やチャレンジ・ミニ企業団地が立地しています。

自然的土地利用が約6割、そのうち農地が5割以上を占めており、市平均と比較すると割合が高くなっています。

(6) 防災

氾濫平野と臨海部に形成された木造住宅の密集地や低層の住宅地等であり、高頻度の洪水や浸水深に深い洪水等の影響を受ける地域であるため、被害の回避に向けた土地利用対策の推進が必要です。

(7) 生活行動

市民の通院や日常的な買い物は、約2割が自地域内で、他地域（市内）の割合が多くなっています。

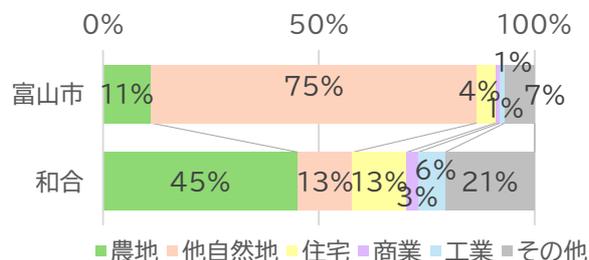
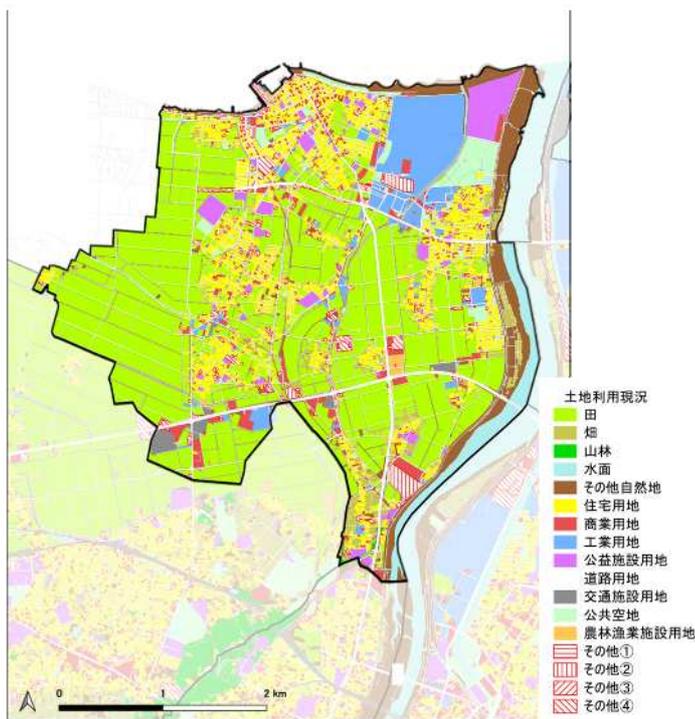
(8) 住民まちづくり、地域資源

獅子舞や曳山祭りなど、地域固有の祭りが地域のつながりを強めています。子供の減少により、存続することも難しくなっています。

小学校の統廃合を控えており、海や田園の資源を活かすため、地域の垣根を超えた協力体制や情報発信の場が必要です。

また、若い世代や海外在住者、移住者などが参加できる組織作りが課題となっています。

■土地利用現況と土地利用面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・ブランド米を育む豊かでのどかな田園環境
- ・海、山、川、田園の風景と景色
- ・安全安心で住みやすい環境
- ・曳山祭りや獅子舞などの地域固有の祭り
- ・四方漁港や八重津浜などの資源
- ・銭湯や温泉の集積

【20年後の地域の将来イメージ】

住みやすい 来やすい 遊びやすい
～WAI WAIで GO GO～

2 まちづくりの目標

i) 四方漁港や四方海浜公園を活かした海辺のレクリエーションの場の形成

海岸部やその周辺の植生など海岸環境の保全・再生を図るとともに、四方漁港や四方海浜公園、八重津浜海水浴場、温浴施設、立山への眺望景観などの海辺の資源を活かし、富山北部地域や水橋地域とのつながりを意識した、海辺のレクリエーションの場の形成に努めます。

ii) 四方の旧市街地での地域生活拠点の形成

四方の旧市街地では、和合コミュニティセンター周辺を中心にフィーダーバス路線に沿って、身近な生活サービスを維持・充実するなど、地域生活拠点の形成を図ります。

iii) 田園環境と調和した住環境の維持・充実

海浜、河川を身近に親しむことができる環境や市街地周辺の田園環境を活かしながら、安全・安心、快適で、ゆとりある住環境の維持・充実を図ります。

八町米の産地として、優良な農地の保全を図るとともに、地場産品を活かした活性化の取組など、地域振興を促進します。

iv) 地域内外を移動しやすい交通環境の形成

都心地区とのつながり、また、富山北部地域や水橋地域の沿岸部、呉羽方面の周辺地域からの来街の促進に向けて、移動しやすい交通環境の形成を図ります。

v) 神通川の河川環境の保全とレクリエーション活用

地域の東側を流れる神通川では、地域住民にとって潤いや安らぎの場となる河川環境の形成を図るとともに、レクリエーションの場として河川敷の活用を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

公共交通の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都心地区に連絡するバス路線や富山港線に接続するフィーダーバス路線、呉羽方面へ連絡するバス路線は、地域内外を連絡する主要な移動手段として、今後もサービスの維持に努めます。
公共交通志向型居住の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の利活用の促進により、公共交通志向型居住の推進を図ります。
中心市街地をはじめとした拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八重津浜海岸の一带では、四方漁港や四方海浜公園を賑わいや交流の場として活用を図り、温浴施設や飲食店等の地域資源を連携するレクリエーションの場の形成し、市民や来街者の都市活動を生み出します。 ・ みどりの核となる和合公園を整備します。また、射水線跡地の歩行者専用道路は、緑豊かな緑地空間の維持を図ります。 ・ 四方の旧市街地では、（都）打出線をはじめとした道路での歩道整備により、歩行者等の回遊性を高めます。また、和合コミュニティセンター、四方漁港、八重津浜海浜公園、和合公園等の地域資源を回遊できる歩行者ネットワークを形成します。
都市マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八重津浜海岸及び海岸に接するクロマツ群落の一体的な保全を図ります。 ・ 四方漁港以西の海岸では、海岸保全施設の整備や白砂青松の再生などにより、地域住民が海に親しめる海岸として整備します。 ・ 神通川の河川敷では、河川環境の保全を図るとともに、野鳥観察などレクリエーションの場としての活用を進めます。 ・ 都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）打出線や（都）富山高岡8号バイパス線における中島本郷立体交差事業等の整備を推進します。 ・ 地域による空き地・空き家の適正管理や有効活用を促進し、安全・安心な良好な住環境の維持を図ります。 ・ 家屋が密集した旧市街地では、不燃化建物への建て替え誘導など、火災に強いまちづくりに努めます。 ・ 洪水ほか、沿岸部での津波・高潮といった災害ハザードを踏まえ、水害に強いまちづくりに努めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活拠点である和合コミュニティセンター周辺では、旧市街地の商店街を地域商業地区として位置付け、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設の充実を図ります。 ・海辺の地域資源の活用を見据え、四方漁港や四方海浜公園等は交流の場づくりを検討します。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・臨海部の大規模工場や企業団地は、工業地区として位置付け、先端産業等の集積を図ります。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> ・打出地区は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区と、幹線道路沿道は一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、田園環境と調和するとともに、利便性と快適性を兼ね備えた定住環境を形成します。 ・地域商業地区周辺の市街地は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 ・公共交通沿線居住の推進地区である富山港線に接続するフィーダーバス路線沿線は、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。 ・空き地や空き家の適正な管理や有効活用を通じて、安全・安心な住環境の維持・活性化を促進します。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の南側に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・八幡、八町、金山新等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。

■まちづくり方針図



施設	★	商業(スーパーマーケット、生鮮食品取扱のドラッグストア)
	■	金融機能(銀行、郵便局、JAなど)
	🏠	医療機能(内科)
	—	フィーダーバス

凡 例	
土地利用	地域商業地区
	沿道商業地区
	工業地区
	住宅専用地区
	住居地区
	複合用途地区
	農業保全地域
	集落地域
	水面

交通	—	広域幹線道路・主要幹線道路 (今後整備 ※事業中含む)
	□□□	(構想: 広域幹線道路)
	□□□	(構想: 主要幹線道路)
	—	幹線道路 (今後整備 ※事業中含む)
	—	地区幹線道路
公園	■	都市公園 (今後整備 ※事業中含む)
拠点	🌸	地域生活拠点
境界	- - -	地域区分

第4章 呉羽地域

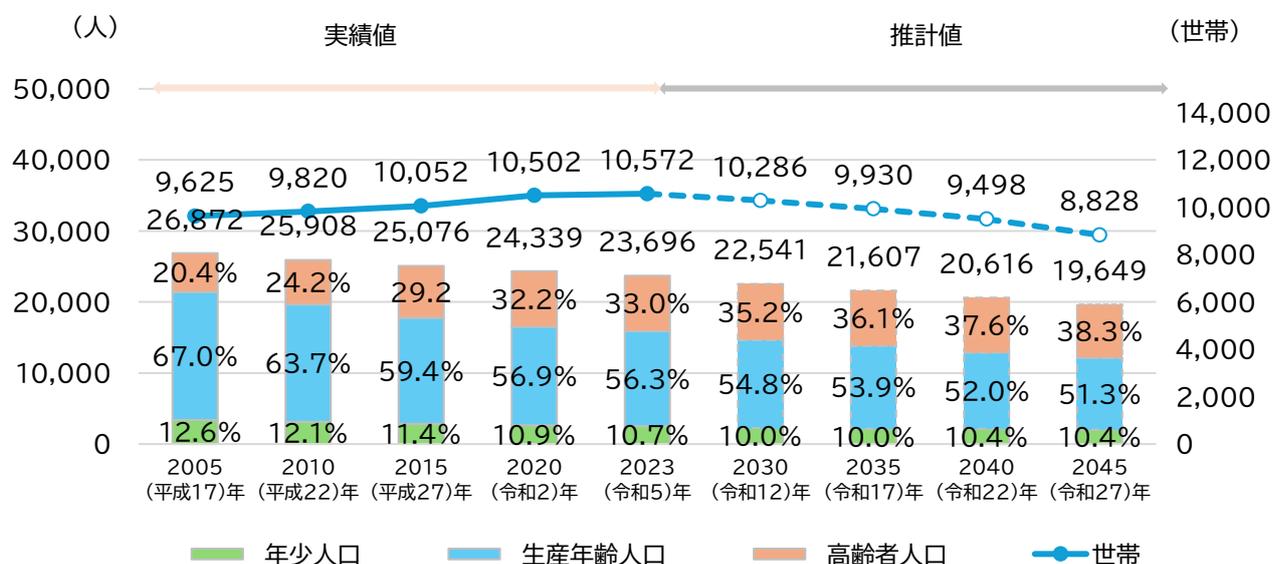
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、23,696人と減少し、人口構成は、高齢化率が33%と高くなっています。また、世帯数は、10,572世帯と高止まりとなっています。

将来推計では、人口、世帯数ともに減少する見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、ガラス造形活動の拠点であるガラス造形研究所やガラス工房、富山市舞台芸術パークにある市民芸術創造センターのほか、県立図書館などが立地しており、芸術文化の拠点となっています。

また、呉羽丘陵周辺には、古墳や城跡、縄文遺跡など、歴史文化資源が多く、様々な資源を楽しむことができます。

(3) 自然・景観

呉羽丘陵地には、梨畑や果樹園が広がり、新たな特産品の創出も進んでいます。また、身近な里山や豊かな自然景観があり、フットパスや富山市ファミリーパークなど、自然を活かした大規模なレクリエーション施設などが立地するとともに、呉羽青少年自然の家では様々な野外アクティビティを体験できます。

(4) 公共交通

呉羽駅では、北口改札が設置され、新た住宅団地の整備や商業施設の立地が進んでいます。

また、路線バスや地域が主体となった自主運行バスが運行されています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である呉羽駅周辺から（主）富山高岡線の沿線を中心に、住宅と商業用地が混在した市街地が広がり、富山西IC周辺では、呉羽南部企業団地を整備し、工業用地が広がっています。また、市街化区域内等で低未利用地が存在しています。

梨畑や水田などの農地が地域の4割を占めており、市平均と比較すると割合が高くなっています。

(6) 防災

谷地形上に住宅地が形成され、土砂災害や雨水出水の影響が局所的にあります。このため、土砂災害の回避に向けた土地利用対策を推進するとともに、地域主体の防災行動の許可により避難等の確実性を高める必要があります。

(7) 生活行動

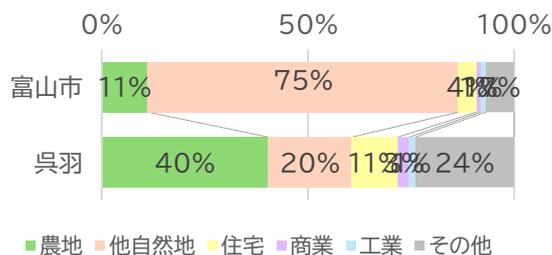
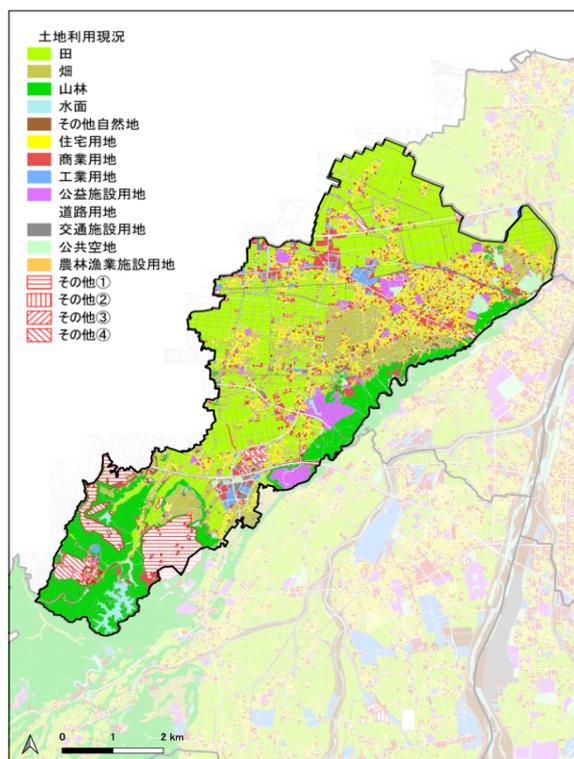
市民の日常的生活行動は、買い物の約8割、通院の6割以上が自地域内で行っていますが、通勤・通学や文化・スポーツは約3割程度となっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、農業の後継者不足や地域コミュニティの衰退が懸念される中、外部の人を受け入れる地域づくりや地域の若年層との連携が必要となっています。

また、地域にある歴史文化資源を次世代に継承するため、小中学生への文化学習などの取組が必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・四季折々に採れる豊かな農産物
- ・呉羽丘陵周辺の文化、体験施設等の集積
- ・生活に密着したコミュニティバス
- ・平野部の田園風景や呉羽山の豊かな自然
- ・呉羽駅周辺の都市機能集積
- ・富山大学附属病院の立地

【20年後の地域の将来イメージ】

学生のエネルギーあふれるまち
呉羽丘陵を核に自然・文化・音・食のまち
とやまのへそ 花のじゅうたん広がる908(くれは)

2 まちづくりの目標

i) 呉羽駅周辺を中心とした地域拠点の形成

呉羽駅周辺から市民芸術創造センターを経て、(主) 富山高岡線沿いに至る市街地を地域生活拠点として位置づけます。

呉羽駅北口地区では、引き続き計画的な住宅地整備を促進するとともに、南口での身近な生活サービスの維持・充実を図ります。

都心地区と連絡するバス路線である(主) 富山高岡線沿いは、公共交通沿線での居住を推進する地区として、バス利用の快適性の向上などの活性化と併せて、身近な生活サービスの維持・充実を進めます。

ii) 呉羽丘陵を核としたレクリエーションの場の形成

富山西部地域側と一体となって、呉羽丘陵を中心に市民が自然に身近に親しむことができるレクリエーションの場の形成を図ります。緑地環境や自然景観、生態系の保全に十分に配慮しながら、自然を活かした交流機能の充実と回遊性の向上を図ります。

iii) 市民芸術創造センターを核とした芸術文化の場の形成

市民の芸術文化創作活動の拠点である市民芸術創造センター周辺では、芸術文化をテーマとした地域の「顔」づくりや、芸術文化関連施設と調和した住宅地の形成、商業機能と連携した賑わいの創出により、市民芸術創造センターを核とした芸術文化の場の形成を図ります。

iv) 田園環境と調和した住環境の維持・充実

水田や果樹園が広がる市街地周辺の田園環境を活かしながら、ゆとりある住環境の維持・充実を図ります。

優良な果樹園・水田の保全を図るとともに、地場産品を活かした活性化の取組など、地域振興を促進します。

v) 富山西 IC を活かした産業機能

北陸自動車道の富山西 IC 周辺では、高速交通条件を活かして、運輸業や卸売業などの物流関連産業や、本市の主要な産業の1つであるものづくり産業の誘導を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

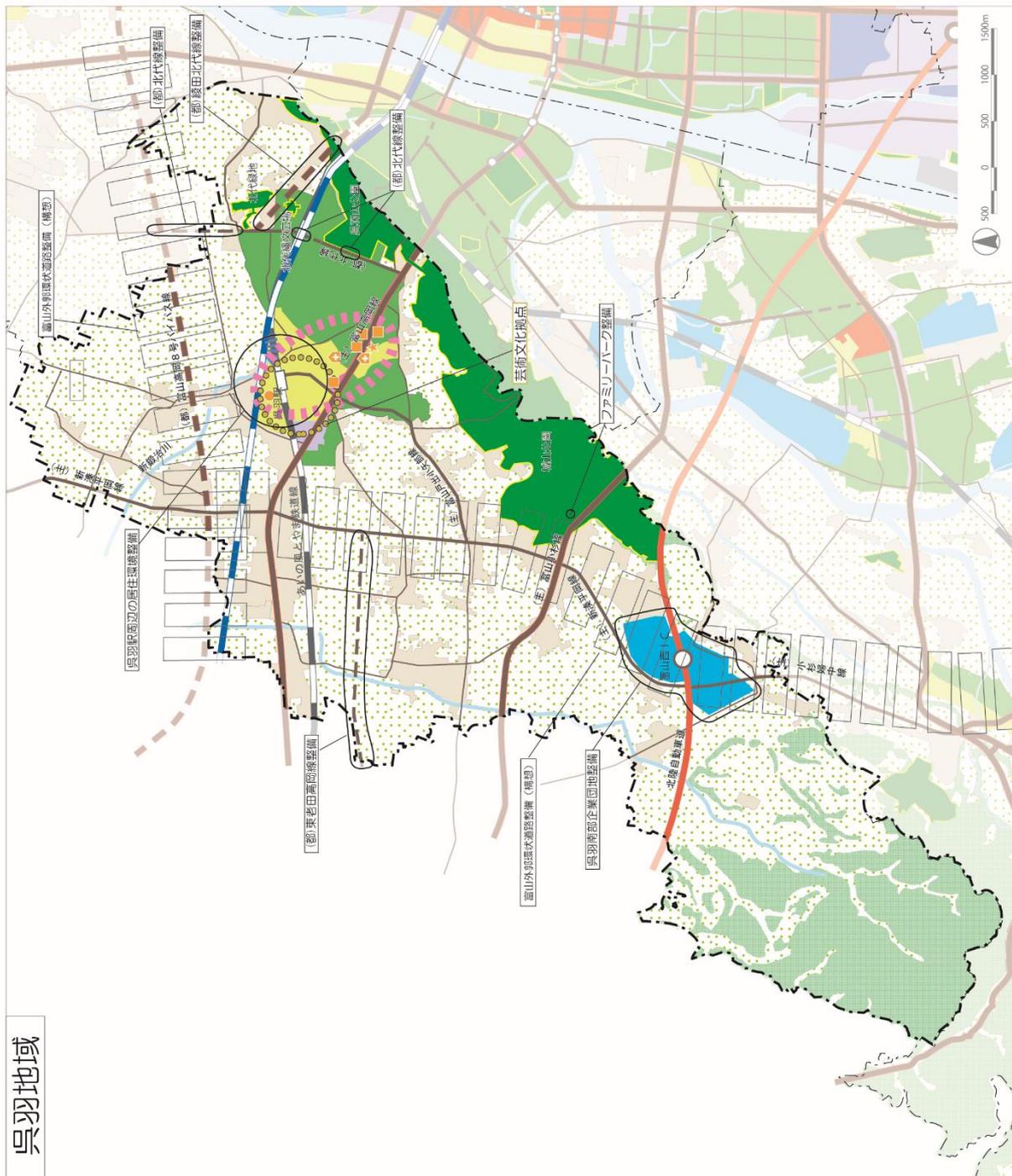
<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいの風とやま鉄道線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・呉羽駅では、アクセス道路として市道高木 10 号線を整備します。また、バスとの連携強化等による利用圏域の拡大、サービス水準の充実を図ります。 ・都心地区と連絡するバス路線（（主）富山高岡線）は、公共交通軸として、バス停上屋の設置等の充実を進め、活性化を図ります。 ・地域自主運行バス（呉羽いきいきバス）の効率化を図りながら、生活を支える公共交通サービス機能の維持に努めます。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の都市リノベーションの促進により、公共交通沿線居住の推進を図ります。 ・公共交通の活性化に合わせた呉羽駅周辺の居住環境の整備を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・呉羽駅周辺において、商業や医療などの都市機能の充実を図り、市民の豊かな生活を支える生活拠点を形成します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・呉羽丘陵では、里山環境やホクリクサンショウウオをはじめとした生物の生息環境の保全に配慮した上で、ファミリーパークの再整備や、「呉羽丘陵フットパス」を活かした周遊散策路整備などを通じて、森林を活かしたレクリエーションの場の形成を図ります。 ・北代緑地、北代縄文広場、都市緑化植物園をはじめ、富山西部地域側を含めた呉羽丘陵全体の回遊性と魅力向上、利用促進を図ります。 ・呉羽丘陵及びその周辺は、建築の規制など秩序ある土地利用により、良好な緑地景観の保全を図ります。 ・（主）富山高岡線と呉羽駅を結ぶ区間は、隣接する市民芸術創造センターの立地を活かし、芸術文化の場にふさわしい景観誘導を図ります。 ・都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）綾田北代線や（都）北代線の整備を推進します。 ・呉羽丘周辺の土砂災害の起きやすい箇所では、新たな住宅地整備は抑えるとともに、災害情報の周知を図るなど、災害リスクを回避・軽減するための取組を進めます。 ・新鍛冶川は、水辺景観に配慮しつつ、治水機能の向上を図ります。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none">・(主) 富山高岡線沿道を地域商業地区として位置付け、地域拠点を担う市街地として、公共交通の活性化と併せて、最寄り品小売業や金融機関、公共施設の充実を図ります。
産業系	<ul style="list-style-type: none">・北陸自動車道の富山西 I C 周辺は、工業地区として位置付け、呉羽南部企業団地を整備し、先端技術を用いた製造工場や流通業務施設の立地を誘導します。
住宅系	<ul style="list-style-type: none">・呉羽駅南周辺を除く市街地は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。・呉羽駅南周辺は、住居地区として位置付け、市民芸術創造センター等の公共公益施設や駅周辺の商業施設と調和した住宅地として形成します。・呉羽駅北口地区は、引き続き計画的住宅地の整備を促進します。・あいの風とやま鉄道線と(主) 富山高岡線が交差する地区周辺は、複合用途地区として位置付け、沿道施設と住宅との調和を図ります。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none">・市街地を囲む農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。また、地域を特徴づける農園の保全を図ります。・集落地域は、既存コミュニティの維持や良好な生活環境の形成に努めます。

■まちづくり方針図

凡 例	
土 地 利 用	<ul style="list-style-type: none"> 広域商業地区 地域商業地区 沿道商業地区 工業地区 流通業務地区 住宅専用品地区 住居地区 複合用途地区 農業保全地域 集落地域 森林環境保全地域 水面
交 通	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線 広域幹線道路・主要幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) 幹線道路 (構想: 広域幹線道路) 幹線道路 (構想: 主要幹線道路) 幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) 地区幹線道路
公 園	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園 (今後整備 ※事業中含む)
拠 点	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活拠点
界 限	<ul style="list-style-type: none"> 地区区分
設 施	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修 商業(バーナムマーケット、生鮮食品取扱のドラッグストア) 金融機能(銀行、郵便局、JAなど) 医療機能(内科)



呉羽地域

第5章 富山西部地域

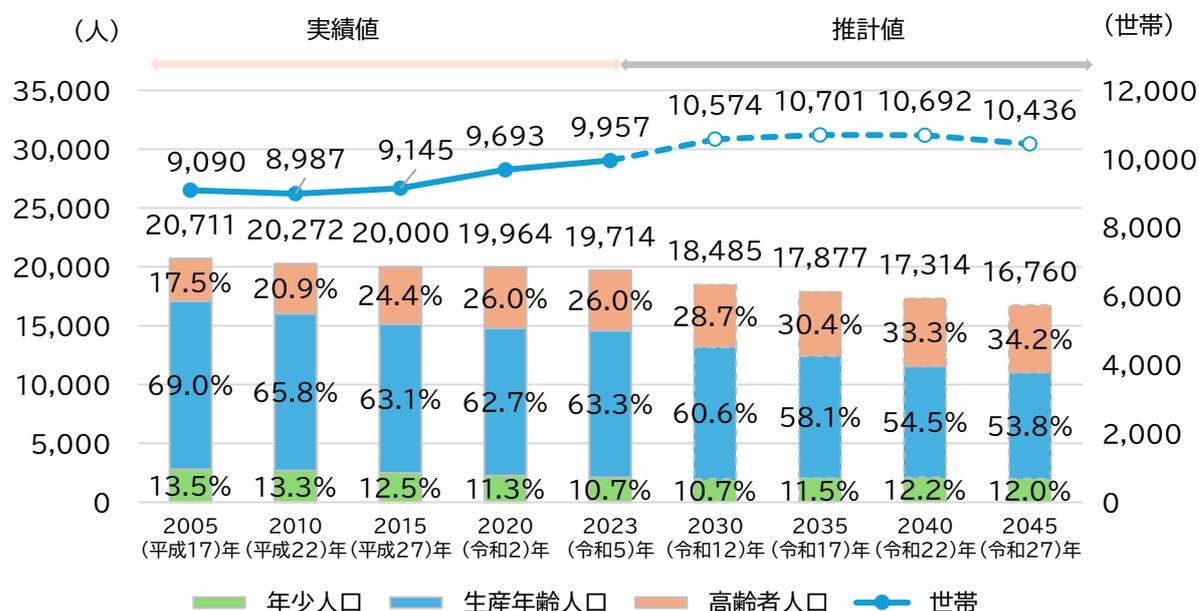
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、19,714人と減少しており、人口構成は、高齢化が進行しています。また、世帯数は、9,957世帯と増加傾向にあります。

将来推計では、世帯分離が進む一方で、人口は減少する見込みとなっています。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、富山大学をはじめ、富山商業高校や富山工業高校、富山大学附属小中学校など、市内だけでなく、県内外から選ばれる教育施設が立地しています。

富山県水墨美術館が立地しているほか、五福公園を中心としたレクリエーション施設、富山市民民俗民芸村や文化財等の地域資源があり、学術文化や交流機能が充実しています。

(3) 自然・景観

呉羽丘陵における緑地環境や自然景観が身近にあり、呉羽山展望台や呉羽丘陵フットパス連絡橋などの観光スポットが充実しています。

(4) 公共交通

路面電車の停留場とJR高山本線の西富山駅が立地し、路線バスなど複数の公共交通が運行されています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である富山大学前停留場周辺を中心に、住宅や商業、教育施設などの土地利用が広がっており、住宅、商業を合わせると、地域内の4分の1を占め、南西には、工業用地等が広がり、金屋企業団地が立地しています。また、低未利用地は市街化区域を中心に全体的に存在しています。

自然的土地利用が約5割、そのうち農地が2割を占めており、市中心部に近いエリアでまとまった農地があります。

(6) 防災

氾濫平野に位置しており、地域のほとんどが浸水想定区域に含まれています。また、神通川や井田川付近では、特に深い浸水が想定され、家屋倒壊等氾濫想定区域も指定されています。さらに、呉羽山断層に隣接しており、呉羽山周辺では、地震を契機とした土砂災害などのリスクもあります。

(7) 生活行動

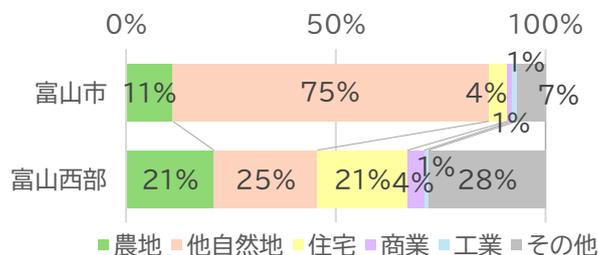
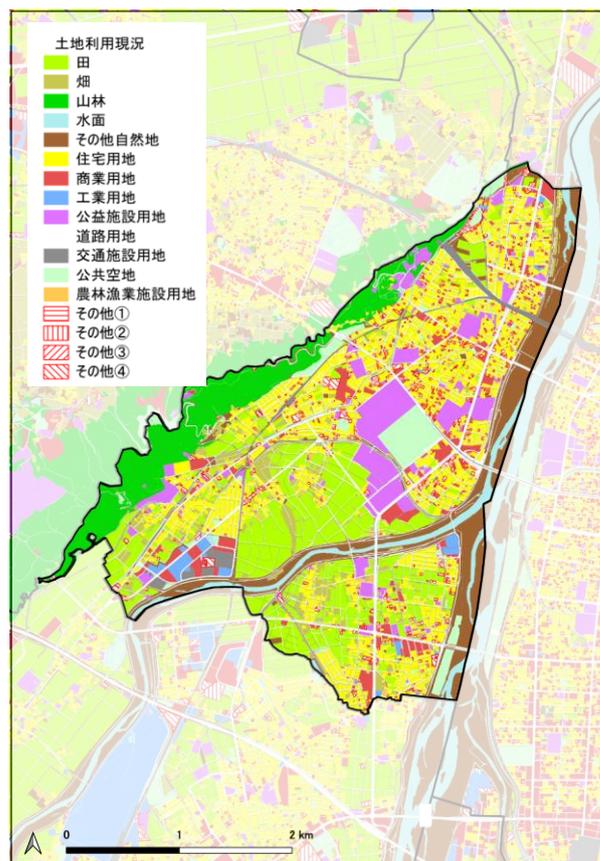
市民の日常的な生活行動は、買い物の約8割、通院の5割が自地域内で行っていますが、通勤・通学やその他の買い物は約2割程度となっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、自治会活動の衰退が懸念される中、大学と地域のつながりが弱く、学生を巻き込んだ地域活動の推進が必要となっています。

都心地区などの市街地からアクセスしやすい農地がある一方で、後継者不足などによる農業の衰退も懸念されており、地産地消に向けた取組が必要です。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・呉羽丘陵周辺の文化・体験施設等の集積
- ・呉羽丘陵地、呉羽山の豊かな自然
- ・学生、子育て世代が生活しやすい街
- ・五福公園など、健康増進、スポーツできる環境
- ・富山大学
- ・近郊農業の中心地

【20年後の地域の将来イメージ】

住む・観る・学ぶを磨き上げ、
住みたい・行きたい・伝えたい 富山西部

2 まちづくりの目標

i) 路面電車の活性化に併せた副次都市拠点の形成

富山大学前停留場をはじめとする路面電車沿線市街地は、路面電車のサービス水準の向上や停留場へのアクセス手段の充実など活性化と併せて、身近な生活サービスをはじめ、学術文化交流、多様な世代の就業、居住機能などの充実を図り、副次都市拠点として形成を図ります。

ii) 広域的な学術文化及び産学官連携の交流の場の形成

富山大学や産業支援施設の立地を活かして、学術文化交流や産学官連携の促進を通じた新産業支援センターの機能充実を図ります。

iii) JR 高山本線の活性化に併せた西富山駅周辺の居住環境整備

西富山駅周辺は、公共交通沿線での居住を推進する地区として、駅関連施設の整備や駅へのアクセス手段の充実など活性化と併せて、駅周辺での居住環境整備を進めます。

iv) 呉羽丘陵を核としたレクリエーションの場の形成

呉羽地域側と一体となって、呉羽丘陵を中心に市民が自然に身近に親しむことができるレクリエーションの場の形成を図ります。緑地環境や自然景観、生態系の保全に十分に配慮しながら、自然を活かした交流機能の充実と回遊性の向上を図ります。

v) 田園環境と調和した住環境の維持・充実

呉羽丘陵のみどりや農地が広がる市街地周辺の田園環境を活かしながら、ゆとりある住環境の維持・充実を図ります。

優良農地の保全を図るとともに、都市近郊の農業地帯として地場産品を活かした活性化の取組など、地域振興を促進します。

3 まちづくりの方針

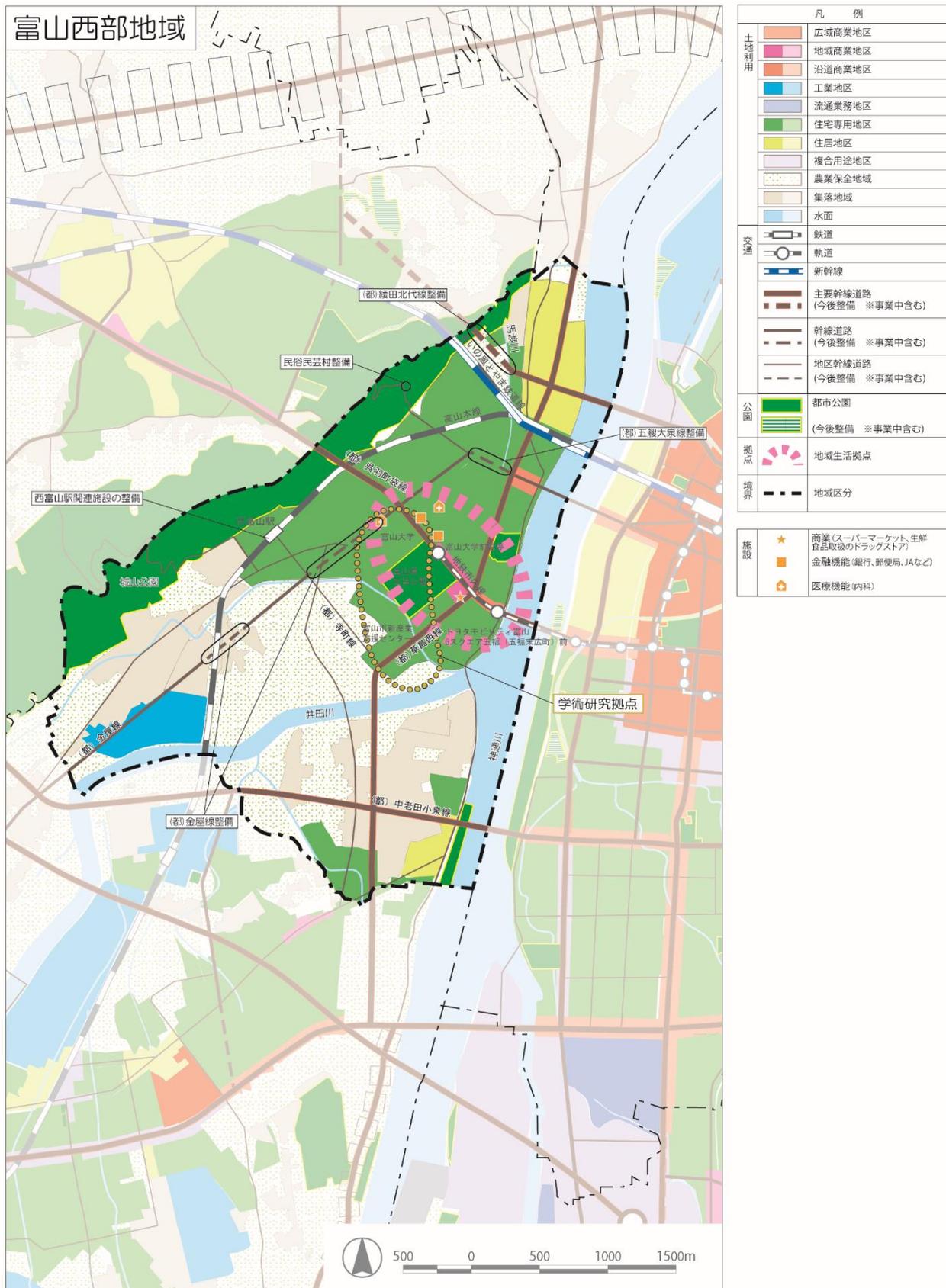
(1) 取組方針

<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R 高山本線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・ 路面電車は、運行本数の増加等により、さらなる利便性の向上を図ります。 ・ 西富山駅は、アクセス道路として（都）寺町線を整備するとともに、駅関連整備などを通じて、利便性の向上を図ります。 ・ 都心地区と連絡するバス路線（（主）富山高岡線）は、公共交通軸として、バス停上屋の設置等の充実を進め、活性化を図ります。 ・ 路面電車の活性化に合わせ、駐輪場の整備や、シェアサイクルなどの身近な移動手段の充実により、利用圏域の拡大を図ります。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の利活用により、公共交通沿線居住の推進を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路面電車の停留場周辺において、商業や文化、レクリエーションなどの都市機能が集積した立地特性と大学施設や創業施設などが立地するイノベーション機能を活かし、西部地域や呉羽地域のゲートウェイとしての副次都市拠点を形成します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な道路・橋梁の整備や管理の実現に向けて、（都）五艘大泉線の神通大橋（上流側）の更新を行います。 ・ 呉羽丘陵では、歴史・文化の学習の場である民俗民芸村の充実や、「呉羽丘陵フットパス連絡橋」を活かした周遊散策路整備などを通じて、森林を活かしたレクリエーションの場の形成を図ります。 ・ 市民の憩いの場となっている神通川緑地を核として、スポーツ・レクリエーションの場の形成を図ります。 ・ 呉羽丘陵及びその周辺は、秩序ある土地利用を図るとともに、建物や屋外広告物の誘導、また、緑地の適切な維持・管理を通じて、良好な緑地景観の保全を図ります。 ・ 都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）金屋線の整備を推進します。 ・ 呉羽丘周辺の土砂災害の起きやすい箇所では、新たな住宅地整備は抑えるとともに、災害情報の周知を図るなど、災害リスクを回避・軽減するための取組を進めます。 ・ 洪水ハザードを踏まえ、水害に強いまちづくりに努めます。 ・ 住宅地内を流れる馬渡川は、水辺景観に配慮しつつ、治水機能の向上を図ります。

(2) 土地利用の方針

<p>商業系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・副次都市拠点である富山大学前停留場をはじめとする路面電車沿線市街地は、地域商業地区として位置付け、公共交通の活性化と併せて、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設をはじめ、富山大学等の学術研究機関等の集積を活かし、新たなビジネス創造に向けて就業の場や交流の場の充実を図ります。 ・(都)五艘大泉線、(都)呉羽町袋線の沿道のうち、環状道路である(都)草島西線以東は、沿道商業地区として位置付け、沿道商業機能の立地の適正化を図ります。
<p>産業系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金屋企業団地は、富山西ICへの近接性を活かした工業地区として位置付け、運輸業や卸売業などの集積を図ります。
<p>住宅系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいの風とやま鉄道線以南、JR高山本線の南側の市街地は、住宅専用地区として位置付け、学生アパートなどの集合住宅を含む良好な低中層住宅地として形成します。 ・西富山駅西側では、寺町けやき台団地など戸建住宅を主体とした住宅地として、良好な住環境の形成を図ります。 ・あいの風とやま鉄道線以北の市街地は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 ・公共交通沿線居住の推進地区である路面電車沿線は、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。 ・西富山駅周辺では、JR高山本線の活性化と併せた居住環境の整備を行います。
<p>農業・自然系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の南部に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・金屋、久郷、下野等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。

まちづくり方針図



第6章 富山南部地域

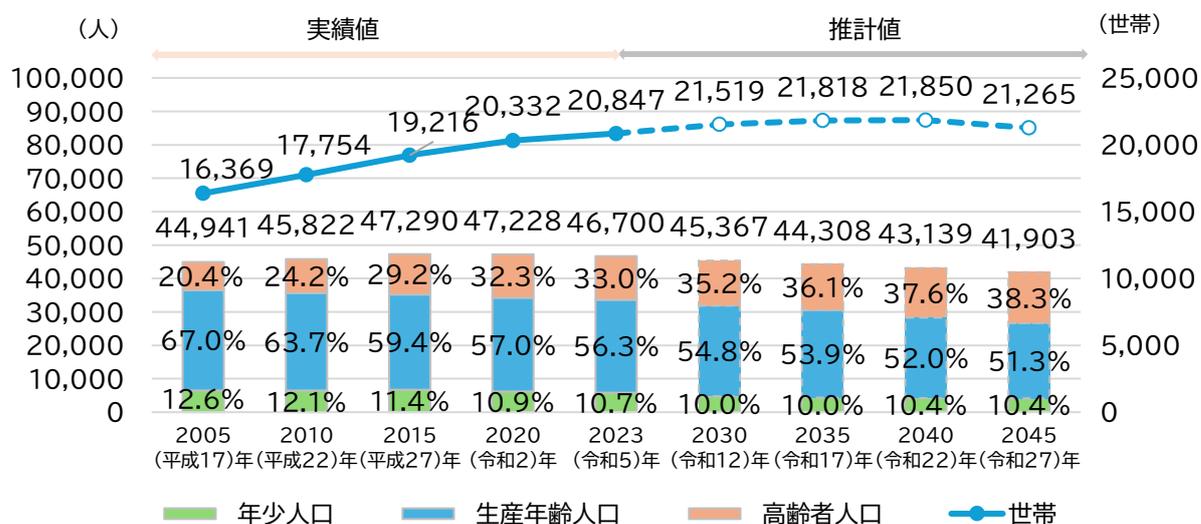
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、46,700人と減少し、人口構成は、高齢化率が33%と高くなっています。また、世帯数は、20,847世帯となっています。

将来推計では、人口は減少しますが、世帯数は2040年ころまで増加する見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、富山県総合運動公園をはじめ富山南総合公園や神通川南緑地など、大きな公園や緑地などが立地しており、スポーツ交流や健康増進の拠点となっています。

また、イタイイタイ病資料館や観光施設など、文化を学ぶことができる施設が立地しています。

(3) 自然・景観

扇状地に位置し、広々とした田園地帯が広がり、市街地の南には散居村的な農村風景が見られます。

西側には神通川、中央部には熊野川が縦断しており、アユの遡上やホタルの生息地になっているなど、豊かな自然環境が残っています。

(4) 公共交通

富山地方鉄道不二越・上滝線が運行し、南富山駅では、路面電車と接続する一方、通過交通が多く歩行者の安全性が確保されていないことなどから、公共交通の利用環境の改善や交通結節機能の強化が求められています。

また、都心地区と連絡する南北方向の路線バスや地域が主体となった自主運行バスが運行されています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である南富山駅周辺から富山地方鉄道上滝線の沿線を中心に、住宅と商業用地が混在した市街地が広がっています。

富山 I C や富山空港の周辺は、流通業務や製造業などの企業団地が整備され、工業用地が広がっています。

水田や畑などの農地が地域の4割を占めており、市平均と比較すると割合が高くなっています。

(6) 防災

常願寺川の扇状地に形成された住宅地であり、洪水の影響を受けやすく、雨水出水の影響や支流(熊野川や土川)の洪水等の影響もあるため、地域主体の防災行動の強化や防災拠点等の充実により避難等の確実性を高めるとともに、被害の回避に向けた土地利用対策の推進が必要です。

(7) 生活行動

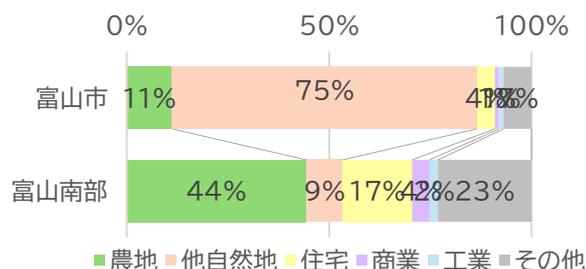
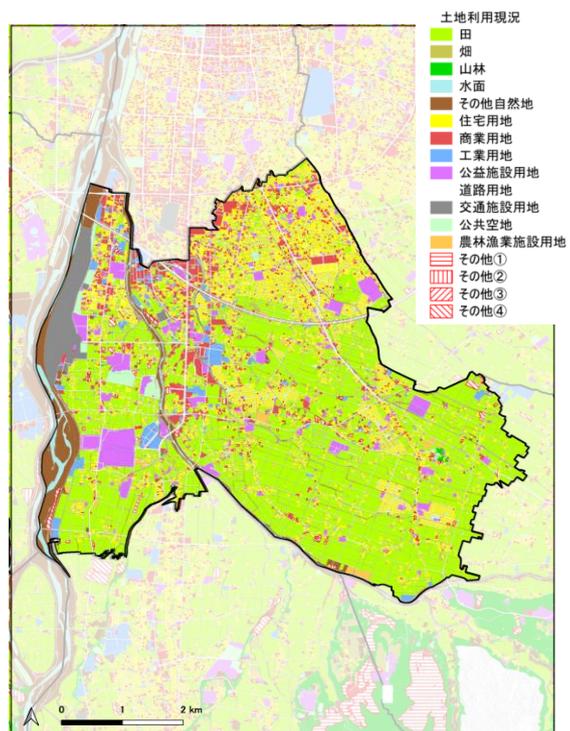
市民の日常的生活行動は、買い物では約7割、通院の約6割が自地域内で行っていますが、通勤・通学や文化・スポーツは約3割程度となっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、農業の担い手が不足する中、農業体験や地産地消のライフスタイル啓蒙を通じた次世代への継承が必要となっています。

また、獅子舞やお祭り等の地域の伝統文化の保全・活性化のために、情報発信や多世代交流の推進等を図ることが必要です。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・交通の要所で交通ネットワークの充実
- ・医療、高齢者施設が充実し、利便性が高い
- ・高齢者等がいそいそと過ごせる環境
- ・豊かな自然、自然景観
- ・豊かな田園地帯の農の恵み
- ・地域でつながり交流できる環境

【20年後の地域の将来イメージ】

自然とコミュニティが活きる、全世代が元気に暮らせるまち

2 まちづくりの目標

i) 南富山駅の交通結節機能の強化に併せた副次都市拠点の形成

南富山駅周辺は、路面電車と富山地方鉄道不二越・上滝線の乗継利便性の向上や駅前広場及び駅関連施設の整備、駅へのアクセス手段の充実など、交通結節機能の強化と併せて、身近な商業をはじめ、多世代の就業や交流、居住機能等を充実し、副次都市拠点の形成を図ります。

ii) 富山地方鉄道地鉄不二越・上滝線の活性化に併せた沿線の居住環境整備

富山地方鉄道不二越・上滝線沿線の地域は、公共交通沿線での居住を推進する地区として、富山地方鉄道不二越・上滝線のサービス水準の向上など活性化と併せて、駅周辺での居住環境整備を進めます。

iii) 田園と調和した良好な市街地環境の形成

農地や水路が残るゆとりある田園環境を活かしながら、市街地の骨格を形成する道路や、地域住民の憩い、レクリエーションの場となる公園の整備等により、良好な市街地環境の形成を進めます。

iv) 富山空港や富山 IC 周辺の都市機能の充実

富山空港及び北陸自動車道富山 I C の周辺では、高速交通条件を活かし、流通業務や住宅等が調和した複合的な土地利用の誘導を図るとともに、多様な交流を促進する都市機能の充実を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

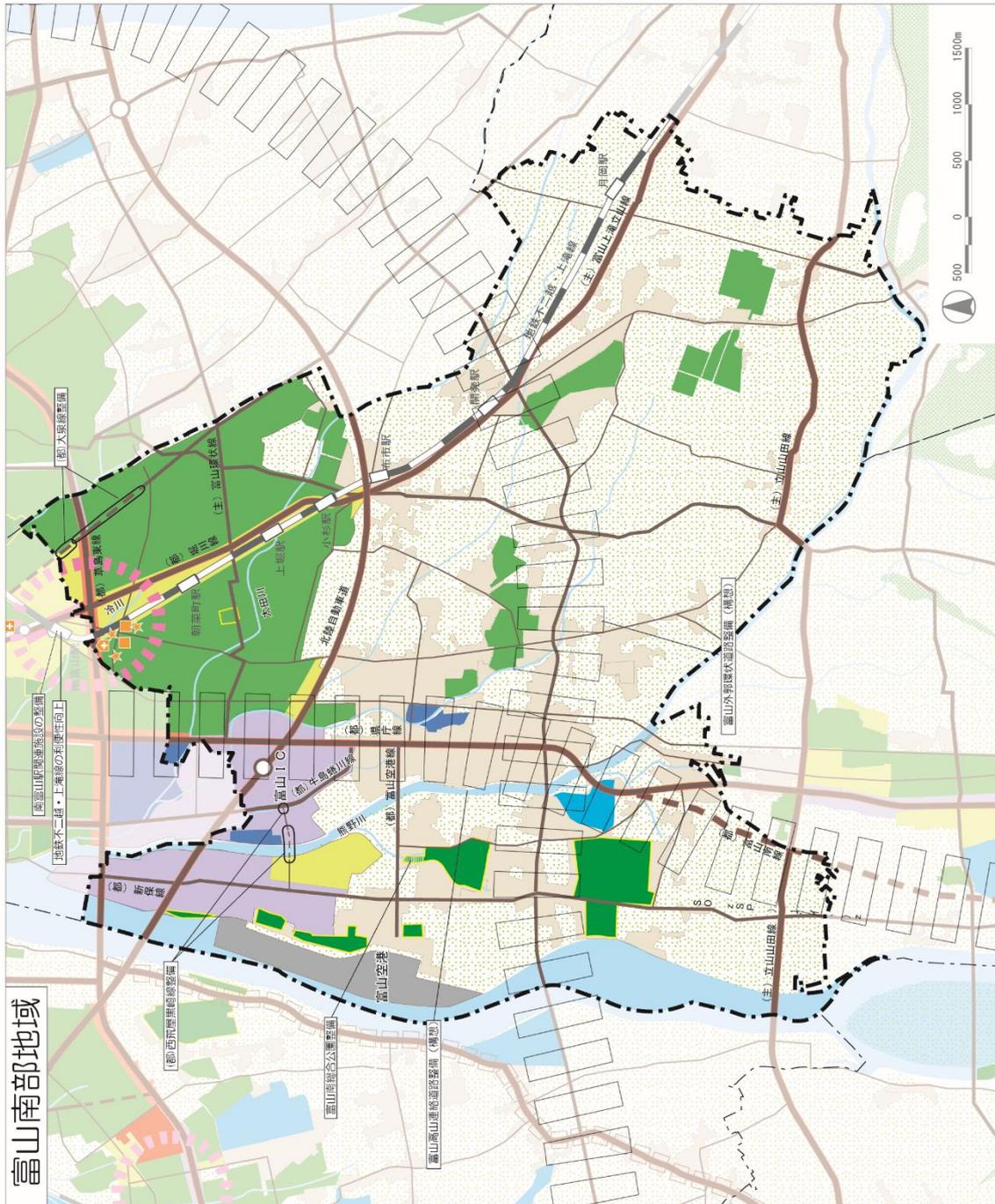
<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山地方鉄道不二越・上滝線及び路面電車の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・南富山駅では、駅前広場や駅関連施設の整備による鉄道と路面電車等の交通結節機能の強化と乗継利便性を高めることにより、都心地区方面とのアクセス性と利用環境の向上を図ります。また、駐輪場の充実等により、利用圏域の拡大を図ります。 ・都心地区と連絡するバス路線（国道41号等）は、公共交通軸として、バス停上屋の設置等の充実を進め、活性化を図ります。 ・地域自主運行バス（堀川南地域コミュニティバス）の効率化を図りながら、生活を支える公共交通サービス機能の維持に努めます。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の利活用により、公共交通沿線居住の推進を図ります。 ・公共交通の活性化に合わせた南富山駅周辺の居住環境の整備を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南富山駅周辺において、商業や教育施設などの都市機能が集積した立地特性や都心地区へのアクセスもしやすい環境を活かし、魅力ある業務や商業の誘致等を推進することに加え、広場整備等により南部地域や大山地域のゲートウェイとしての副次都市拠点を形成します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの拠点及びスポーツ活動を主体としたレクリエーション拠点として、富山南総合公園を整備します。 ・富山産業展示館は、近年のイベント規模の大型化に対応する展示交流施設の充実を図ります。 ・都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）大泉線や（都）西荒屋黒崎線等の整備を推進します。 ・冷川、太田川、熊野川では、治水機能の向上と河川環境を整備します。 ・洪水ハザードを踏まえ、水害に強いまちづくりに努めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> ・副次都市拠点である南富山駅周辺のうち、駅前商店街及び（都）堀川線沿道は、地域商業地区として位置付け、公共交通の活性化と併せて、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設の充実を図ります。 ・（都）草島東線沿道は、沿道商業地区として位置付け、沿道商業機能の立地の適正化を図ります。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・（都）県庁線（国道 41 号）沿道のとやまオムニパークは、交通利便性を活かした工業地区として位置付け、異業種交流のモデル団地として形成します。 ・富山 IC 周辺の富山流通団地や富山トラック輸送センターは、流通業務地区として位置付け、流通業務に関連した店舗や事業所等の誘導を図ります。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> ・南富山駅周辺の住宅地では、商業施設や公益施設等と調和した住宅地を形成します。 ・（都）県庁線（国道 41 号）以東の市街地や珠泉、月岡等の住宅団地は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区として位置付け、周辺の田園環境と調和するゆとりある良好な住環境の形成を図ります。 ・地鉄不二越・上滝線沿線は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 ・富山 IC 周辺や富山空港の周辺は、複合用途地区として位置付け、流通業務と居住が調和した住宅地として形成します。富山空港周辺は、住宅地を中心に一部流通機能を含む複合的な土地利用を誘導します。 ・公共交通沿線居住の推進地区である富山地方鉄道不二越・上滝線沿線やバス路線（国道 41 号等）沿道は、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の南部に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・布市、新保、安養寺等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。

■まちづくり方針図

凡例	例
土質活用	<ul style="list-style-type: none"> 広域商業地区 地域商業地区 沿道商業地区 工業地区 流通業務地区 住宅専用地区 住居地区 複合用途地区 農業保全地域 無着地域 水面
交通	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道 広域幹線道路：主要幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) 幹線道路 (構想：広域幹線道路) 幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) 地区幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) 支線
公園	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園 (今後整備 ※事業中含む)
拠点	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活拠点
境界	<ul style="list-style-type: none"> 地域区分
施設	<ul style="list-style-type: none"> 商業(スーパーマーケット、生鮮食品売場のドラッグストア) 金融機能(銀行、郵便局、JAなど) 医療機能(内科)



第7章 富山東部地域

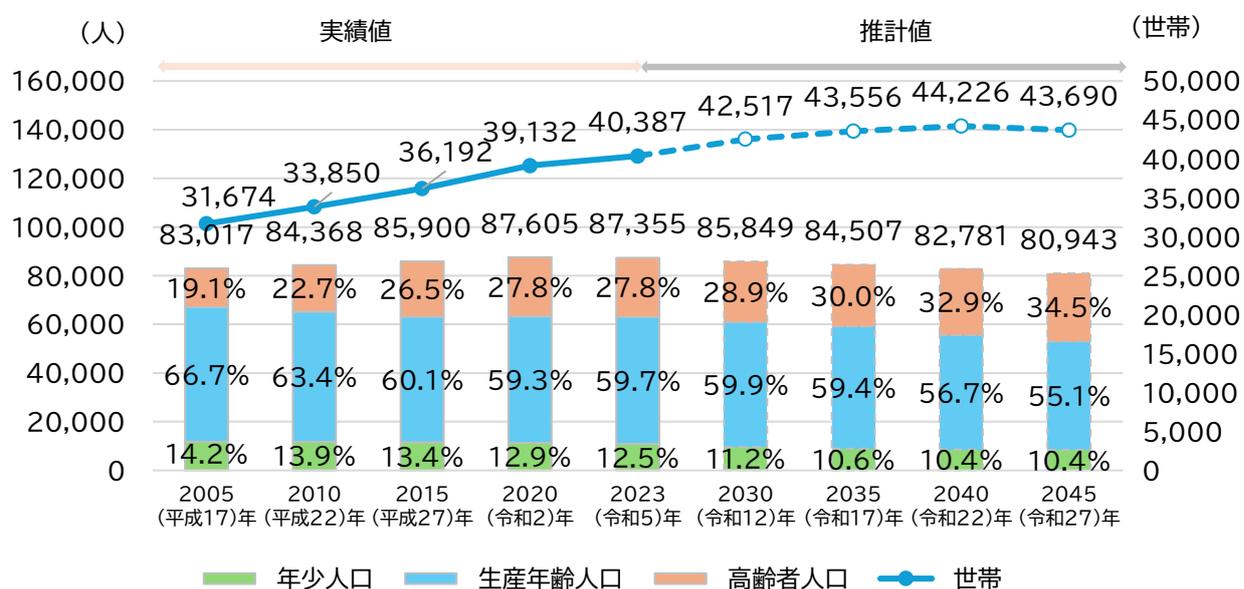
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、87,355人と14地域内で最も多い地域です。人口構成は、高齢化率が28%と14地域内で3番目の低さです。また、世帯数は、40,387世帯となっています。

将来推計では、人口は減少しますが、世帯数は2040年ころまで増加する見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、浮田家住宅と金岡邸の文化財が立地するほか、世界かんがい遺産に登録されている常西合口用水が還流し、歴史文化の拠点となっています。

また、西番周辺には、地震、水害などの自然災害を伝承する大転石などの歴史資源が点在し、災害の教訓を学ぶことができます。

(3) 自然・景観

城東ふれあい公園をはじめ、緑や自然が身近にあり、南部を中心に豊かな田園と散居村的な風景が広がっています。

また、常願寺川やいたち川、常西用水等の水資源があり、豊かな水の恵みを感じることができます。さらに、市街地からでも立山連邦を眺望することができます。

(4) 公共交通

富山地方鉄道本線及び不二越線の各駅が立地するとともに、藤ノ木方面など運行頻度の高い路線バスが運行されています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である富山地方鉄道不二越・上滝線の沿線や国道41号、(都)草島東線などの幹線道路の沿線を中心に、住宅と商業用地、工業用地が混在した市街地が広がっています。また、富山地方鉄道本線の沿線や南側の市街地には、小規模な低未利用地が多く存在しています。

住宅や商業で地域の3割以上を占め、14地域中2番目に都市的土地利用が進んでいる地域です。

(6) 防災

常願寺川に隣接している住宅地であり、広く洪水の影響を受けます。また、近年には雨水出水の被害も発生しているため、地域主体の防災行動の強化や防災拠点等の充実により、避難等の確実性を高めるとともに、雨水出水等の被害回避に向けた土地利用対策の推進が必要です。

(7) 生活行動

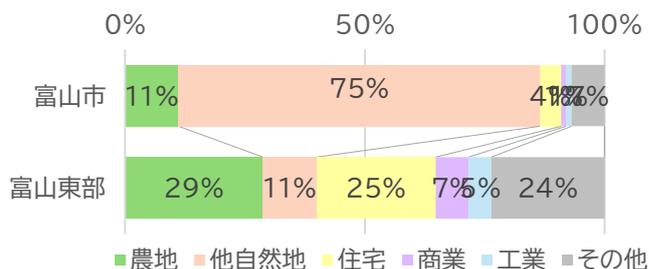
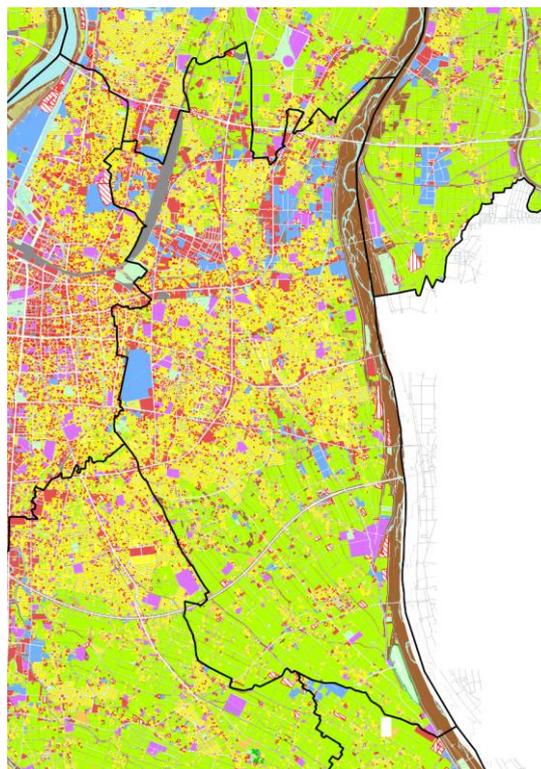
市民の日常的な生活行動は、自地域内が、買い物や通院では約7～8割、その他の買い物では5割、通勤・通学や文化・スポーツでは3割程度となっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

教育施設が集積し、新規に転入する方や交流人口が増えていることから、地域の魅力を向上させるために世代間交流の場づくりが必要となっています。

また、地域にある歴史文化資源を次世代に継承することや、頻発する災害に対し、防災学習などの取組が必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・歴史的資源の点在
- ・身近に感じられる自然資源と立山の眺望
- ・豊かな水の恵みをはじめとした観光資源
- ・公共交通が充実し、生活利便性が高い
- ・幅広い教育環境が集積、子育て環境が良い
- ・市民の憩いの場である城東ふれあい公園

【20年後の地域の将来イメージ】

地域資源から始まるまちのコミュニケーション
歴史文化・教育・自然を活かした「次世代・交流・共存・共生のまち」

2 まちづくりの目標

i) 安全・安心、快適で回遊性の高い副次都市拠点の形成

不二越駅周辺から稲荷町駅周辺に至る市街地を副次都市拠点として位置づけ、安心・快適に歩きながら買い物を楽しむことができる商業空間の形成をはじめ、稲荷公園や県立中央病院、温浴施設などの立地特性を活かし、多様な世代の健康医療や就業、交流、居住機能などの充実を図ります。

ii) 富山地方鉄道本線等の公共交通の活性化に併せた沿線での生活関連機能

富山地方鉄道本線や（都）呉羽町袋線、（都）総曲輪線・（主）富山立山公園線、（都）中老田小泉線等のバス路線沿線の地域は、公共交通沿線での居住を推進する地区として、駅関連施設の整備や駅へのアクセス手段の充実、バス利用の快適性の向上など活性化と併せて、駅やバス停周辺での生活関連機能の充実を進めます。

iii) 田園と調和した良好な市街地環境

農地や緑地、水路が残るゆとりある田園環境を活かしながら、市街地の骨格を形成する道路や、稲荷公園や城東ふれあい公園をはじめとした、地域住民の憩い、レクリエーションの場となる公園の整備等により、良好な市街地環境の形成を進めます。

iv) 流杉PAスマートICの立地特性を活かした周辺整備

流杉PAスマートIC周辺では、ETC専用のスマートICへのアクセス道路の改良や、高速交通条件を活かした土地利用を検討します。

v) 常願寺川の自然環境とスポーツ・歴史・文化資源を活かしたまち

地域の自然の骨格である常願寺川の河川環境を保全・整備するとともに、河川敷を活用したスポーツ・レクリエーションの場の形成を図ります。また、常願寺川沿いの治水や利水等に関わる歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進します。

3 まちづくりの方針

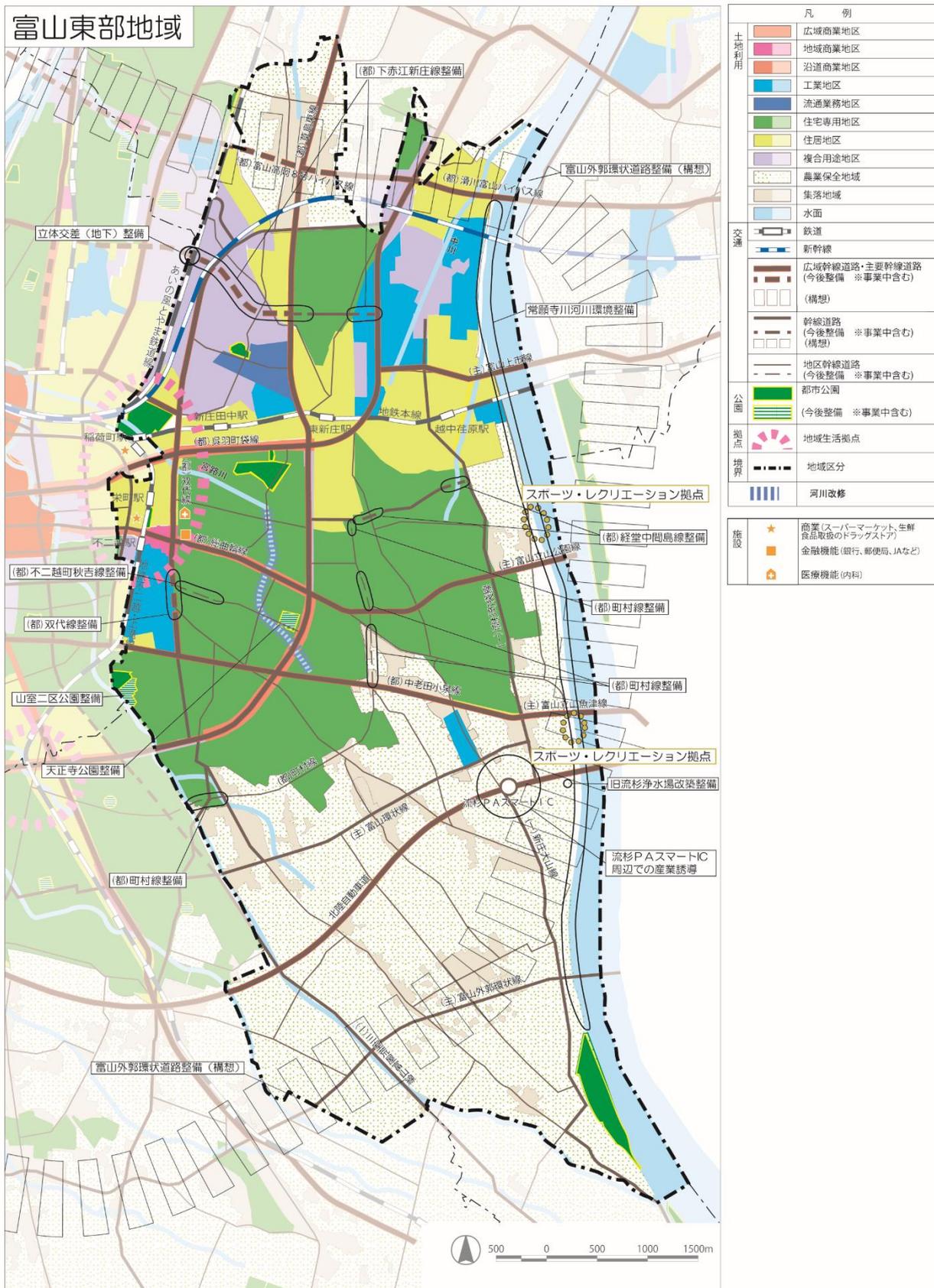
(1) 取組方針

<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいの風とやま鉄道線、富山地方鉄道本線、不二越・上滝線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・不二越駅、栄町駅及び稲荷町駅周辺では、シェアサイクルなどの身近な移動手段を検討し、回遊性の向上を図ります。 ・都心地区と連絡するバス路線は、公共交通軸として、バス停上屋の設置等の充実を進め、利便性の向上を図ります。 ・新富山口駅では、開業後の駅周辺交通量や駅の利用状況を注視し、サービス水準の充実に努めます。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の利活用により、公共交通沿線居住の推進を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・稲荷元町駅から不二越町駅周辺において、商業や教育文化、レクリエーション、総合病院などの都市機能が集積した特性や都心地区との近接性を活かし、東部地域や市外の新川地区からのゲートウェイとしての副次都市拠点を形成します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区公園である山室二区公園及び近隣公園である天正寺公園を整備します。 ・常願寺川沿いは、河川と一体となった緑地を形成するとともに、河川敷に広がる朝日運動広場や大日運動広場での利便施設の充実により、スポーツ・レクリエーションの場の形成を図ります。 ・都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）下赤江新庄線、（都）経堂中間島線等の整備を推進します。 ・宮路川や中川では、治水機能の向上を図ります。 ・洪水ハザードを踏まえ、水害に強いまちづくりに努めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> ・副次都市拠点である不二越駅周辺から稲荷町駅周辺に至る市街地に、地域商業地区を位置付け、公共交通の活性化や歩行者空間の整備と併せて、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設の充実を図ります。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・不二越周辺や新庄地区、荒川地区など市街地内の既存工業地は、工業地区として位置付け、大規模工場や機械工業等の産業集積を図ります。 ・国道8号と国道41号の結節点に位置する富山問屋センターは、流通業務地区として位置付け、流通業務に関連した店舗や事業所等の誘導を図ります。 ・流杉PAスマートIC周辺での産業立地を検討します。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> ・富山地方鉄道本線以南の市街地は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。 ・富山地方鉄道本線や富山地方鉄道不二越・上滝線の駅周辺は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 ・工業地区や流通業務地区周辺の市街地は、複合用途地区として位置付け、工業、流通業務、商業、居住が調和した住宅地として形成します。 ・公共交通沿線居住の推進地区である富山地方鉄道本線、富山地方鉄道不二越・上滝線沿線、(都)総曲輪線や(都)呉羽町袋線等のバス路線沿線は、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の南側に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・集落地域では、コミュニティを維持するための良好な生活環境の形成に努めます。

まちづくり方針図



第8章 水橋地域

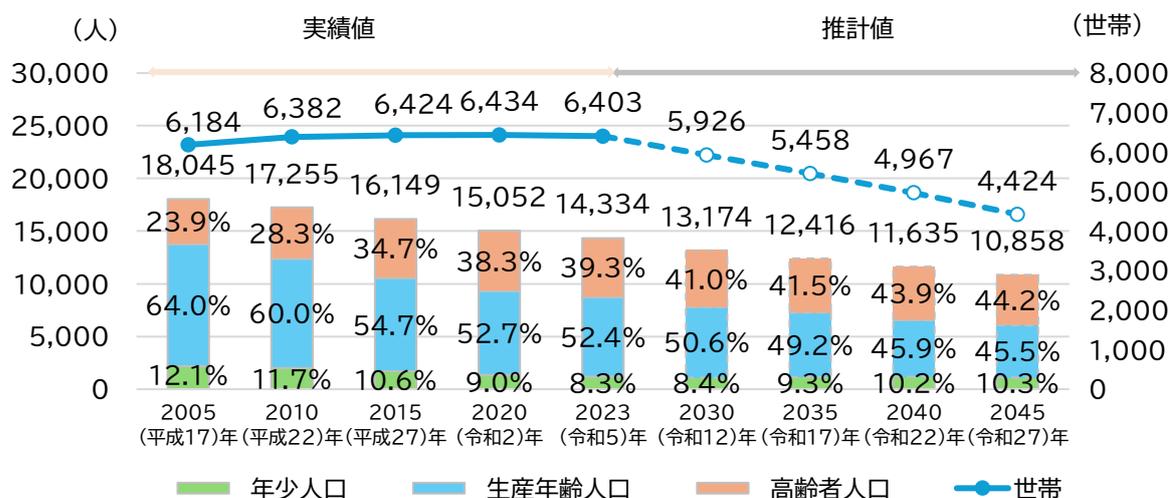
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、14,334人と減少し、高齢化率が39.3%と14地域で3番目に高くなっています。また、世帯数は、6,403世帯となっています。

将来推計では、人口は減少し、世帯数は減少が加速する見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

沿岸部では、水橋漁港を中心に、神社や史跡などが立地する港町の街並みが形成されています。また、新鮮な海産物を提供する食堂が漁港に隣接するほか、水産加工品に関する観光施設も立地しています。さらに、地域のつながりを強める、地域固有の祭りも行われています。

(3) 自然・景観

海洋レクリエーションの拠点である水橋フィッシャリーナが整備され、マリンスポーツや散策を楽しむことができ、豊富な地下水を活用した温泉施設も集積しています。

また、地域内には、富山湾、常願寺川、豊かな田園地帯があり、立山連峰を一望することができ、水田地帯では、農地の大区画化、スマート農業の導入による農作業の効率化や新規就農の確保などにより、豊かな田園風景を守る農業振興に向けた取組が進められています。

(4) 公共交通

あいの風とやま鉄道線の水橋駅や富山地方鉄道本線の越中三郷駅が立地し、路線バスや地域が主体となった自主運行バスも運行されています。また、水橋駅の南側では、市内初の小中一貫校として水橋学園が整備され、跡地活用も含め、学校を活かしたまちづくりの推進が必要となっています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である水橋駅周辺を中心に、住宅と商業用地が混在した市街地が広がり、国道8号沿線や常願寺川沿いには、企業団地が整備され、工業用地が広がっています。

また、市街化区域のほか、集落地域にも低未利用地が存在しています。

畑や水田などの農地が地域の5割を占めており、市平均と比較すると割合が高くなっています。

(6) 防災

富山湾や白岩川等に隣接し、木造住宅の密集地等もあることから、豪雨時の洪水の影響や地震時の津波の影響（到達時間が短い場合あり）があります。このため、地域主体の防災行動の強化や防災拠点等の充実により避難等の確実性を高めるとともに、被害の回避に向けた土地利用対策の推進が必要です。

(7) 生活行動

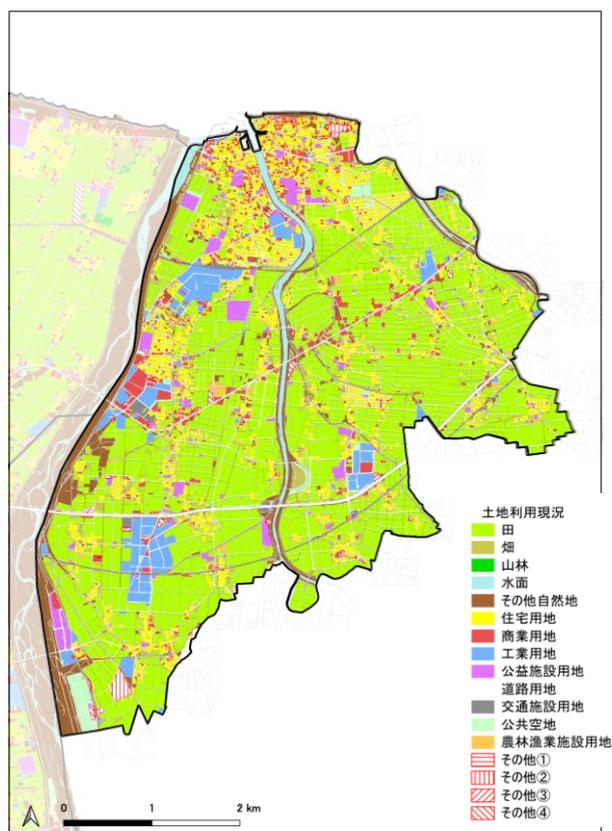
市民の日常的生活行動は、買い物の約4割、通院の約3割が自地域内で行っていますが、通勤・通学は約2割が自地域内で、他地域（市外）の割合が多くなっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、祭りの担い手や農業の後継者が不足する中、高齢者の地域活動への積極的参加による世代を超えた交流の場づくりや外部の人を受け入れる地域づくりが必要となっています。

また、地域資源の魅力を維持・創出するため、地域内外に向けた情報発信や学校など既存施設の利活用、空き家を活用した移住ニーズの受け皿づくりなどの取組が必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・水橋漁港と水橋食堂、海のレジャー施設
- ・銭湯、温泉の集積
- ・漁業、農業が盛んで、工業団地もある環境
- ・市内初の小中一貫校の水橋学園
- ・海、山、川、田園の風景と景色
- ・安全安心で住みやすい住環境
- ・公共交通が複数あり利便性が高い

【20年後の地域の将来イメージ】

LOVE・元気・かけはし水橋

みずみどりが映える 笑顔があふれる 変化を恐れず楽しむ 「よかったね水橋」

2 まちづくりの目標

i) あいの風とやま鉄道線の活性化に併せた地域拠点の形成

水橋駅周辺から港町の風情が残る旧市街地の一帯は、駅関連施設の整備や駅へのアクセス手段の充実など活性化と併せて、身近な生活サービスを維持・充実するなど、地域拠点の形成を図ります。

旧市街地では、漁港のあるまちの雰囲気や蔵等の建物等を活かしながら、散策して楽しい空間づくりを進めます。

ii) 水橋漁港等を活かしたレクリエーションの場の形成

漁港や水辺の資源等を活かした、水橋漁港でのレクリエーション機能の維持に努めるとともに、白岩川での親水性のある水辺空間の整備や、立山の眺望景観などの資源を活かし、和合地域や富山北部地域とのつながりを意識した、海辺のレクリエーションの場の形成を図ります。

iii) 水橋学園を活かしたまち

水橋学園と水橋駅周辺とのアクセス環境の改善を図るとともに、水橋学園を新しいコミュニティの核としたまちづくりを進めます。

旧学校跡地を活かしたコミュニティの場づくりをはじめ、海浜、河川を身近に親しむことができる環境や、市街地周辺の田園環境を活かしながら、安全・安心、快適で、ゆとりある住環境の維持・充実を図ります。

iv) 多様な働く場を活かしたまち

水橋漁港や国営ほ場整備事業が実施された大区画農地、上条工業団地等が立地する地域として、漁業・農業、工業など、多様な働く場を活かしたまちづくりを進めます。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

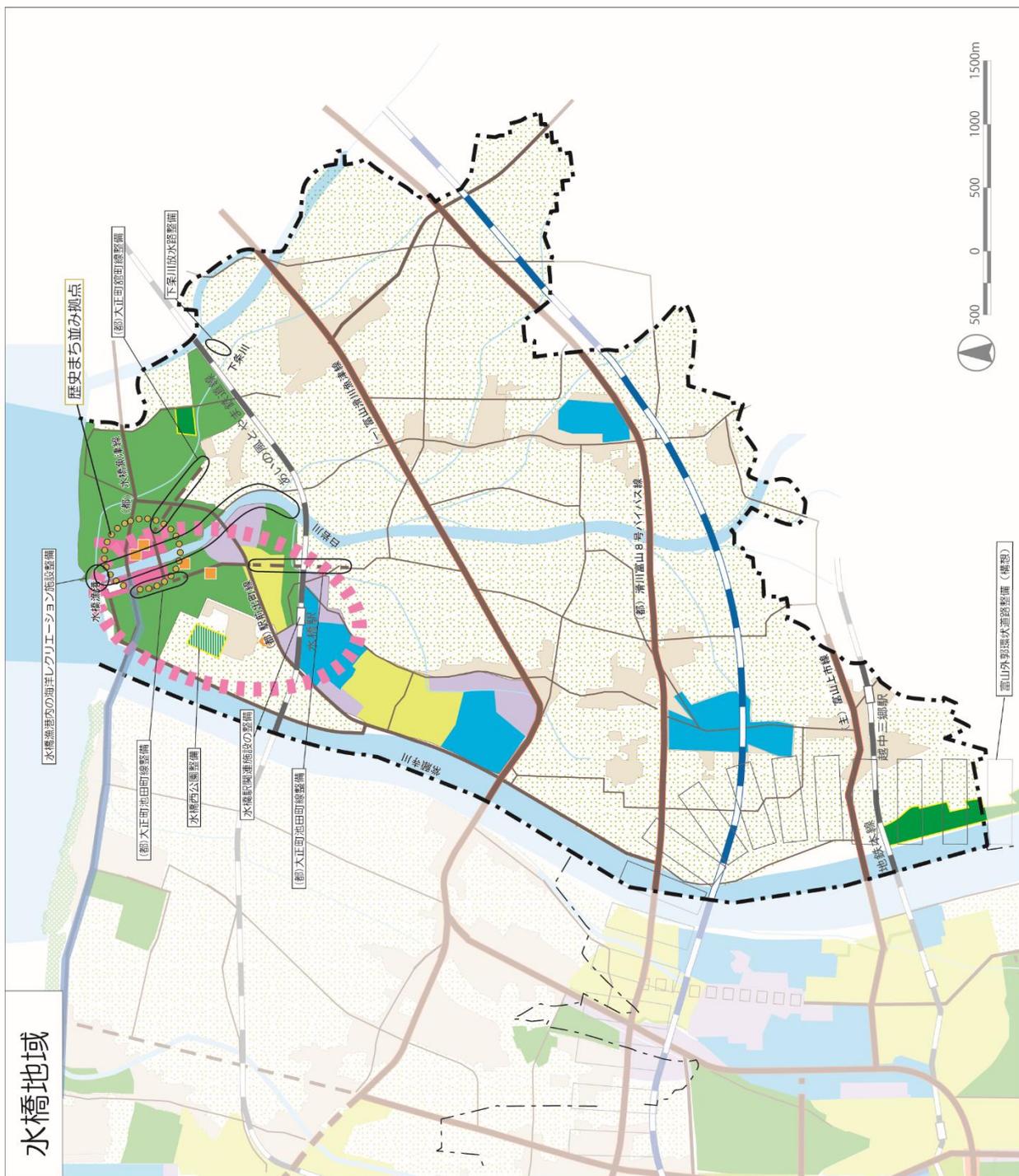
<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいの風とやま鉄道線及び富山地方鉄道本線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・水橋駅では、バスとの連携強化等による利用圏域の拡大、サービス水準の充実を図ります。 ・都心地区と連携するバス路線や富山港線に接続するフィーダーバス路線は、地域内外を連絡する主要な移動手段として、今後もサービス水準の維持に努めます。 ・地域自主運行バス（水橋ふれあいコミュニティバス）の効率化を図りながら、生活を支える公共交通サービス機能の維持に努めます。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の利活用により、公共交通沿線居住の推進を図ります。 ・公共交通の活性化に合わせた水橋駅周辺の居住環境の整備を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存駅周辺での都市機能の充実を図るとともに、地域資源を活かした都市活動を生む地域拠点の形成を目指します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水橋駅周辺の緑の場としての水橋西公園を整備します。 ・白岩川の河口部では、水辺とのふれあいなど親水機能の向上を図ります。 ・常願寺川沿いでは、常願寺川緑地を核としてスポーツ活動を主体としたレクリエーションの場の形成を図ります。 ・都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）大正町池田町線、（都）大正町館町線等の整備を推進します。 ・白岩川では、治水機能の向上と河川環境を整備します。 ・地域による空き地・空き家の適正管理や有効活用を促進し、安全・安心な良好な住環境の維持を図ります。 ・洪水や沿岸部での津波・高潮といった災害ハザードに備え、水災害に強いまちづくりに努めます。 ・下条川の治水機能の向上を図るため、上市川への放水路を整備します。 ・家屋が密集した市街地では、風情ある街並み景観の形成に配慮しつつ、不燃化建物への建て替え誘導など、火災に強いまちづくりに努めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> ・水橋駅周辺から旧市街地にかけて地域生活拠点では、水橋中部地区センター周辺を地域商業地区として位置付け、風情ある街並みを活かしながら、既存の商店街等を中心に、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設の充実を図ります。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・常願寺川沿いや（都）滑川富山8号バイパス線沿道の工業団地は、工業地区として位置付け、医薬品、水産加工物等の大規模工場や機械工業等の産業集積を図ります。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> ・水橋駅周辺の住宅地では、身近な生活サービスや公益施設等と調和した住宅地として形成します。 ・地域商業地区周辺の市街地は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。 ・水橋駅の北側の市街地は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。また、北側と南側を工業地区にはさまれた水橋中村付近の市街地は、一定規模の商業や生産を支えるサービス業が立地可能な住居地区として位置付けます。 ・工業地区周辺等は、複合用途地区として位置付け、工業、居住が調和した住宅地として形成します。 ・公共交通沿線居住の推進地区である水橋駅周辺及び富山港線に接続するフィーダーバス路線沿線は、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の南側に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・水橋小出、水橋小路、水橋清水堂等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。

まちづくり方針図

凡例	内容
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 地域商業地区 工業地区 住宅専用地区 住居地区 複合用途地区 農業保全地域 集落地域 水面
交通	<ul style="list-style-type: none"> 幹線 新幹線 広域幹線道路・主要幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) 幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) 地区幹線道路 都市公園 (今後整備 ※事業中含む)
公園	公園
拠点	地域生活拠点
構築	地区区分
施設	<ul style="list-style-type: none"> 商業 (スーパーマーケット、生鮮食品取扱のトラックストア) 金融機能 (銀行、郵便局、JAなど) 地域生活拠点
	フィーターパス



第9章 大沢野地域

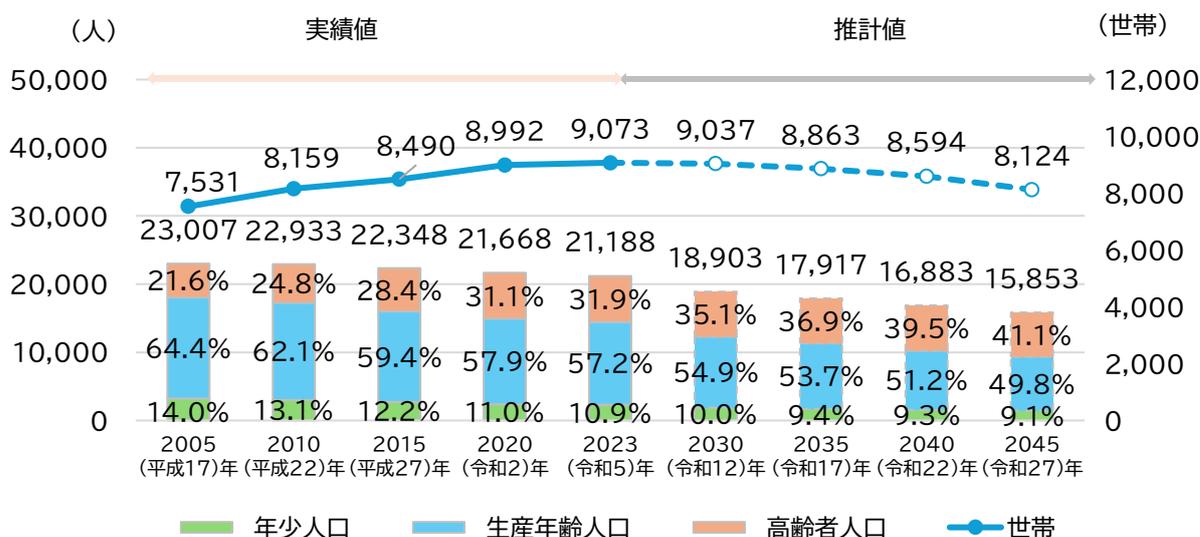
1 地域の現況

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、21,188人と減少傾向にあり、高齢化率が31.9%となっています。また、世帯数は、9,073世帯となっています。

将来推計では、人口は減少し、増加していた世帯数も減少に転じる見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、おおざわの石仏の森・八百羅漢をはじめ、史跡が点在し、歴史文化資源を身近に感じることができます。

また、舟倉用水は、歴史の体験学習ができる貴重な文化資源となっています。

さらに、古くから伝わる祭りが地域の伝統文化として保存されています。

(3) 自然・景観

豊かな田園地帯を活かした農の恵みや特産品があり、地産地消を促進する産地直売所が立地しています。神通川沿いでは、豊かな自然を活かした温泉施設やアウトドア施設が整備され、様々な野外アクティビティを体験できます。

また、猿倉山森林公園からの眺望や寺家公園の桜や紅葉、神通川さくら堤などでは、豊かな自然景観に出会うことができます。

(4) 公共交通

JR高山本線の笹津駅が立地し、国道41号には運行頻度の高い路線バスが運行されています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である笹津駅周辺から国道41号の沿線を中心に、住宅と商業用地が混在した市街地が広がり、市街地の周辺には、企業団地が整備され、工業用地が集積しています。また、市街化区域のほか、集落地域にも低未利用地が存在しています。

畑や水田などの農地が地域の2割を占めており、市平均と比較すると割合が高くなっています。

(6) 防災

河岸段丘上に位置した住宅地であり、豪雨による洪水等の影響を受けにくいですが、局所的に土砂災害の影響があります。このため、土砂災害回避に向けた土地利用対策の推進が必要です。

(7) 生活行動

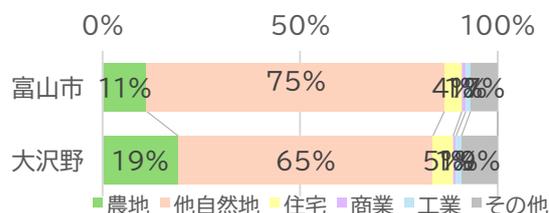
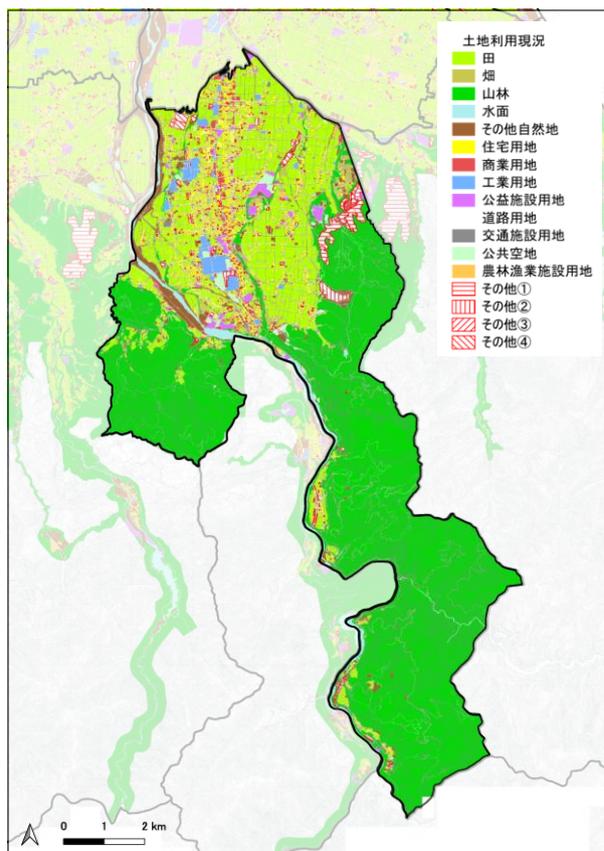
市民の日常的生活行動は、買い物の約7割、通院の約6割が自地域内で行っていますが、通勤・通学や文化・スポーツは約3割程度となっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、農業の担い手が不足する中、農業体験や地産地消のライフスタイル啓蒙を通じた次世代への継承が必要となっています。

また、獅子舞やお祭り等の地域の伝統文化の保全、活性化のために、情報発信や多世代交流の推進等を図ることが必要です。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・豊かな田園環境の農の恵み、自然景観
- ・公共交通網、交通ネットワークの充実
- ・豊かな自然による観光、レクリエーション資源
- ・地域でつながり交流できる環境(地域への愛着)
- ・高齢者がイキイキと過ごせる環境
- ・豊富な文化資源や地域の伝統文化

【20年後の地域の将来イメージ】

自然豊かで先祖を大切にする
うん米まち

2 まちづくりの目標

i) JR 高山本線等の活性化に併せた生活拠点の形成

笹津駅周辺から大沢野行政サービスセンター周辺を経て大沢野消防署周辺に至る国道41号の沿道市街地を地域生活拠点として位置づけます。

JR 高山本線やバス路線の利便性・快適性の向上と併せて、大沢野行政サービスセンター周辺等での公共公益施設や、商業施設等の身近な生活サービスの維持・充実を図ります。

ii) 公共交通軸となるバス路線の活性化に併せた生活関連機能の充実

都心地区と連絡するバス路線である国道41号沿道は、公共交通沿線での居住を推進する地区として、地域生活拠点以外の沿道でも、身近な生活サービスの維持・充実を図ります。

また、国道41号と連絡する東西方向の道路整備を進めます。

iii) 地域の個性を継承するまちづくりの推進

良好な住環境を活かしながら、田園・山間地の豊かな自然環境や伝統文化等を継承できるまちづくりを推進します。

iv) 健康福祉を支える水辺空間の形成

神通川沿いの春日地区一帯では、春日温泉郷や健康福祉施設等の既存の集積を活かして、健康福祉を支える水辺空間の形成を図ります。

笹津駅周辺の笹津橋と春日温泉郷との連携により、集客性と回遊性を高め、賑わいの創出を図ります。

v) 自然とのふれあいの場の充実

猿倉山森林公園や寺家公園等の一帯は、豊かな自然環境を保全しながら、自然とのふれあいの場としての充実を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

公共交通の活性化	<ul style="list-style-type: none">・ J R 高山本線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。・ 笹津駅では、バスとの連携強化やパーク&ライド駐車場の維持による利用圏域の拡大を図ります。・ 都心地区と連絡するバス路線（国道 41 号）は、公共交通軸としての充実を進め、利便性の向上を図ります。・ 高齢者を対象とした乗合タクシーを運行することにより、生活交通の確保を図ります。
公共交通志向型居住の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の利活用により、公共交通沿線居住の推進を図ります。
中心市街地をはじめとした拠点の形成	<ul style="list-style-type: none">・ 大沢野会館周辺において、商業や医療などの都市機能の維持や充実を図り、市民の豊かな生活を支える生活拠点を形成します。・ 笹津駅周辺は市民や来街者が、春日温泉や猿倉山、国登録有形文化財に指定された笹津橋、神通峡などの資源にアクセスできる環境を形成します。
都市マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none">・ 都心地区や各拠点との連絡を支える道路ネットワークとして、（都）西幹線や（都）長附加納線等の整備を推進します。・ 洪水ハザードを踏まえ、水害に強いまちづくりに努めます。・ 山間部の土砂災害の起きやすい箇所では、新たな住宅地整備は抑えるとともに、災害情報の周知を図るなど、災害リスクを回避・軽減するための取組を進めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> 生活拠点である笹津駅周辺と大沢野行政サービスセンター周辺は、地域商業地区として位置付けます。笹津駅周辺の駅前商店街を中心とする地区では、公共交通の活性化と併せて、最寄り品小売業等の身近な生活サービス施設の集積を促進します。大沢野行政サービスセンター周辺では、公共公益施設の充実を図ります。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> 中大久保地区や高内地区等の既存工業地等は、国道 41 号へのアクセスを活かした工業地区として位置付け、医薬品や電子部品、航空機部品などのものづくり産業の育成を図ります。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> 生活拠点である国道 41 号沿道の住宅地では、身近な生活サービスや公益施設等と調和した住宅地として形成します。 (都) 中央幹線 (国道 41 号) 背後の市街地は、戸建住宅を中心とした住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。 地域商業地区や工業地区周辺等の住宅地は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 (都) 中央幹線 (国道 41 号) 沿道や工業地区周辺は、複合用途地区として位置付け、沿道施設やサービス機能等と調和した住宅地として形成します。 公共交通沿線居住の推進地区である笹津駅周辺や (都) 中央幹線 (国道 41 号) のバス路線沿線では、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の東側と西側に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 船峯、春日、塩等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。 地域の南部に広がる山林は、森林環境保全地域として、豊かな自然環境や景観の保全を図るとともに、森林を活かしたレクリエーションの場としての利活用を図ります。

第10章 大山地域

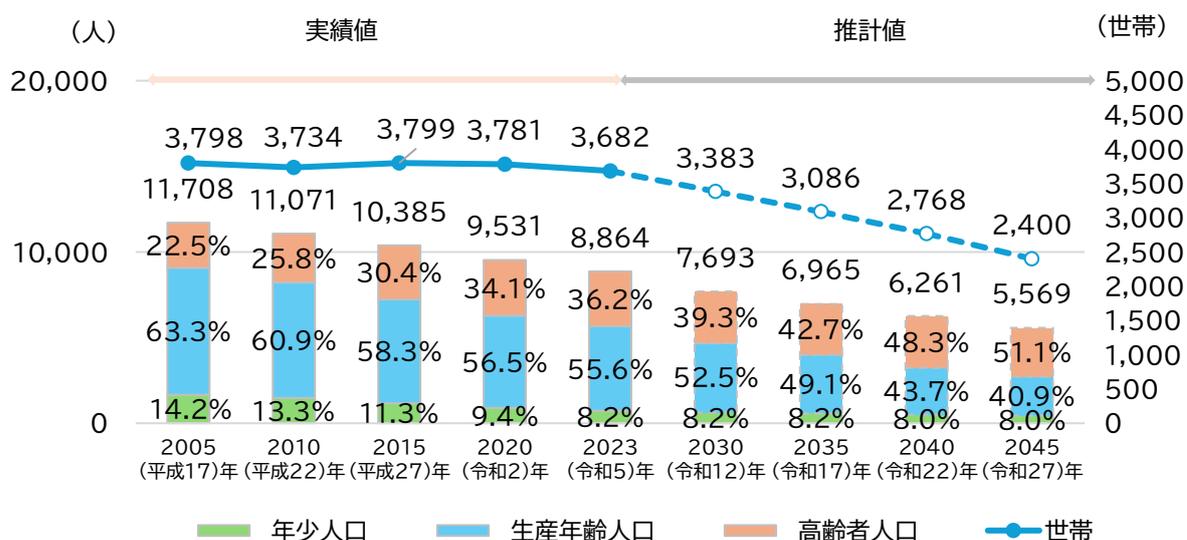
1 地域の現況

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、8,864人と減少し、高齢化率が36.2%と高くなっています。また、世帯数は、3,682世帯となっています。

将来推計では、人口、世帯ともに減少し、高齢化が顕著に進行する見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、県内初の世界かんがい施設遺産「常西合口用水」や小水力発電所が多数あり、水と電気のまちとなっています。

また、本宮砂防えん堤をはじめとする国土保全施設が豊富にあり、立山や常願寺川が作り出す貴重な文化遺産となっています。

(3) 自然・景観

平野部の常願寺川沿いや常西用水沿いには水辺空間や緑地が整備され、豊かな自然資源を楽しむことができます。

また、中山間地域では、観光と自然体験が一緒に楽しめるスキー場、キャンプ・リゾート施設が立地し、様々な野外アクティビティを体験できます。

(4) 公共交通

富山地方鉄道不二越・上滝線の大庄駅、上滝駅、大川寺駅、富山地方鉄道立山線の有峰口駅、本宮駅が立地しています。

また、路線バスのほか、中山間地等で市営の大山コミュニティバスが運行しています。

(5) 土地利用

地域内の大部分が自然的土地利用を占めており、住宅用地はごく一部となっています。また、低未利用地は、主に上滝駅周辺に存在しています。

地域拠点である上滝駅周辺以北では、住宅と農地が混在した市街地が広がっています。

(6) 防災

扇状地の頂点部に位置する木造住宅の密集地であり、常願寺川からの洪水や崖地での土砂災害の影響、複合災害の影響があります。このため、土砂災害や洪水による被害の回避に向けた土地利用対策の推進とともに、地域主体の防災行動の強化等による避難等の確実性を高める必要があります。

(7) 生活行動

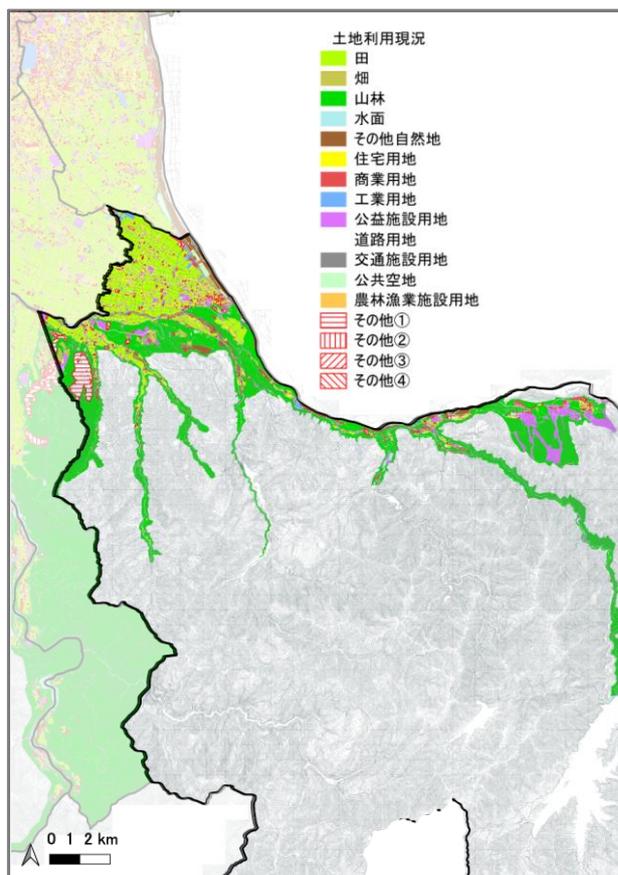
市民の日常的生活行動は、買い物の8割以上、通院の7割以上が市内の他地域で行っています。なお、市内では、富山南部が主な行き先となっており、地域のつながりが強くなっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

教育施設が揃い、豊かな子育て環境が整っていることから、学生との交流機会の拡大や学校などの既存ストックを活用した新たなコミュニティの場づくりが必要となっています。

また、地域にある歴史文化資源を次世代に継承するため、周辺学校と連携した地域学習などの仕組みづくりが必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・公共交通網の充実
- ・豊かな子育て環境
- ・地域でつながり交流できる環境
- ・豊かな自然景観、観光・レクリエーション資源の充実、豊富な文化資源
- ・災害の少なさ

【20年後の地域の将来イメージ】

大山学を始めよう！
日本一幸せな限界集落

2 まちづくりの目標

i) 富山地方鉄道不二越・上滝線の活性化に併せた地域拠点の形成

上滝駅周辺は、富山地方鉄道不二越・上滝線のサービス水準の向上や駅関連施設の整備、駅へのアクセス手段の充実など活性化と併せて、駅周辺での生活に必要な機能の維持とともに、常願寺川の水辺空間や常西用水などの景観、殿様林グラウンドなどの機能と連携して市民の余暇活動や来街者の観光を生み出す地域拠点として形成します。

ii) 都心方面をはじめ地域間を連絡する道路

都心部とのつながりを強化するとともに、周辺地域からの来街を誘導するための幹線道路の整備を進めます。

iii) 大山研究学園都市を核とした学術文化の場の形成

富山国際大学周辺は、既存の学術文化機能の集積を活かして、教育・研究・研修施設等の誘致など研究学園都市にふさわしい土地利用を誘導します。

また、大学等と地域住民との協働による地域の魅力を高めるまちづくりを推進します。

iv) 常願寺川沿いでのスポーツ・レクリエーションの場及び歴史的景観の形成

常願寺川沿いの殿様林緑地や上滝公園、常西合口用水周辺は、一体的な保全・整備を進めながら、スポーツ・レクリエーションの場の形成を図ります。また、治水に関わる歴史・文化資源を活かした歴史的景観の形成を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山地方鉄道不二越・上滝線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・上滝駅では、アクセス道路として（都）上滝駅前線を整備します。また、バスとの連携強化やパーク＆ライド駐車場の整備による利用圏域の拡大を図ります。 ・大山コミュニティバスの効率化を図りながら、生活を支える公共交通サービス機能の維持に努めます。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の都市リノベーションの促進により、公共交通沿線居住の推進を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存駅周辺での都市機能の維持を図るとともに、地域資源を活かした都市活動を生む地域拠点の形成を目指します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・殿様林緑地は、みどりの拠点及びスポーツ活動を主体としたレクリエーションの場の形成を図ります。 ・地域の憩いの場であり、良好な水辺景観を形成している常西合口用水沿いの松・桜並木等の保全を図ります。 ・立山山麓や有峰湖周辺では、観光・交流機能の充実を進めながら、地域資源を活かしたレクリエーションの場の形成に努めます。 ・常願寺川沿いでは、佐々堤や太田閘門、殿様林など治水に関わる歴史・文化資源を保全・整備することにより、歴史的景観としての形成を図ります。 ・学術文化の場となる教育機関や企業等と地域まちづくりの連携を促進します。 ・都心間や拠点間の形成を支える道路ネットワークとして、（一）上滝山室線等の整備を推進します。 ・常願寺川上流域における砂防事業の促進により、集中豪雨に伴う土砂災害の防止を図ります。 ・土砂災害の起きやすい箇所では、新たな住宅地整備は抑えるとともに、災害情報の周知を図るなど、災害リスクを回避・軽減するための取組を進めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	・地域拠点である上滝駅周辺は、地域商業地区として位置付け、駅周辺及び駅前商店街を中心に、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設の充実を図ります。
住宅系	・田園空間や河川空間に接する市街地の縁辺部は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。 ・地鉄不二越・上滝線の北側や上滝駅南側は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 ・地域商業地区と大川寺駅を結ぶ道路の沿道は、複合用途地区として位置付け、商業、居住が調和した住宅地として形成します。 ・公共交通沿線居住の推進地区である上滝駅や大川寺駅の周辺は、公共交通の活性化と併せて、上滝北地区の面整備を誘導しながら、居住の推進を図ります。
農業・自然系	・富山国際大学や職藝学院等の集積を活かした教育機能や関連施設等の充実により、周辺の自然環境との調和に配慮しつつ、学術文化の場としての形成を図ります。 ・地域の北西部に位置する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・大庄地区、東福沢地区、大山上野等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。 ・地域の南部に広がる山林は、森林環境保全地域として、豊かな自然環境や景観の保全を図るとともに、森林を活かしたレクリエーションの場としての利活用を図ります。

第11章 八尾地域

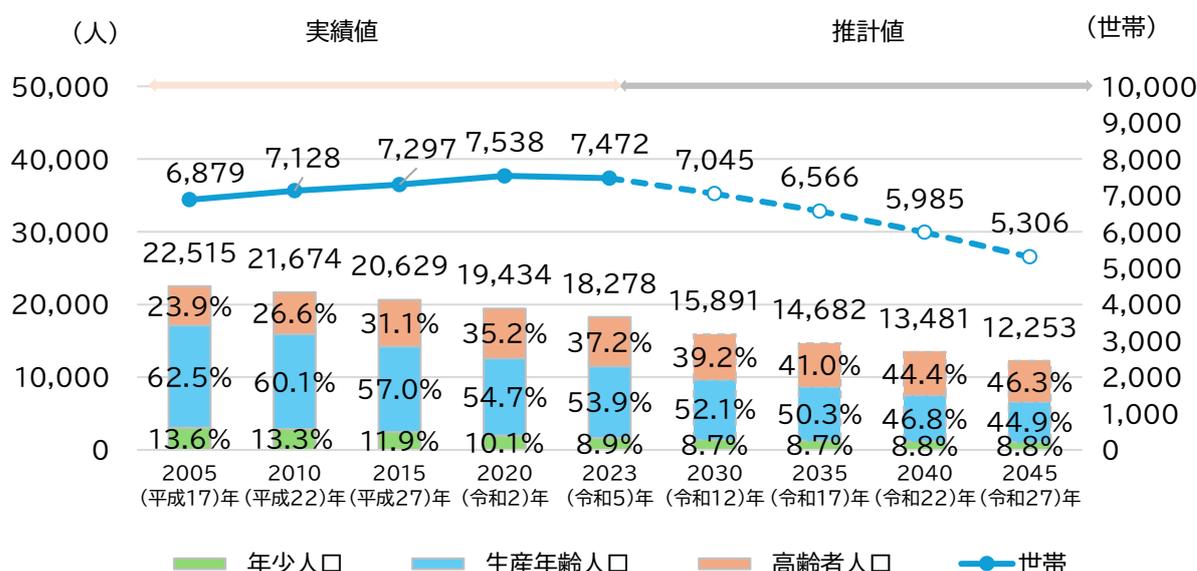
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、18,278人と減少し、高齢化率が37%と14地域で4番目に高くなっています。また、世帯数は、7,472世帯となっています。

将来推計では、人口は減少し、増加していた世帯数も減少に転じる見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

「越中八尾おわら風の盆」が全国的に有名であり、「越中八尾曳山祭り」は県の有形民俗文化財に指定されているほか、八尾町旧町周辺には資料館などの施設があり、歴史文化を体験することができます。

また、中山間地域などでは、城跡などの歴史遺産が点在しています。

(3) 自然・景観

八尾町旧町周辺には、石垣や石畳など美しい街並み景観があり、諏訪町大通りは日本の道100選に選定されています。

また、中山間地域には、豊かな自然を活かしたスポーツ・レクリエーション施設があり、アクティビティを体験することができます。

(4) 公共交通

JR高山本線の越中八尾駅と東八尾駅が立地し、路線バスのほか、中山間地等で市営の八尾コミュニティバスが運行しています。

(5) 土地利用

生活拠点である越中八尾駅周辺を中心に、住宅と商業用地が混在した市街地が広がり、地域の北西には、富山八尾中核工業団地が整備され、工業用地が広がっています。また、用途地域のほか、集落地域に低未利用地が存在しています。

地域の9割が山林などの自然的土地利用となっており、市平均よりも割合が高くなっています。

(6) 防災

扇状地の頂点部に位置する木造住宅の密集地であり、井田川からの洪水の影響や隣接する崖地での土砂災害の影響があります。このため、土砂災害回避に向けた土地利用対策の推進とともに、地域主体の防災行動の強化等による避難等の確実性を高める必要があります。

(7) 生活行動

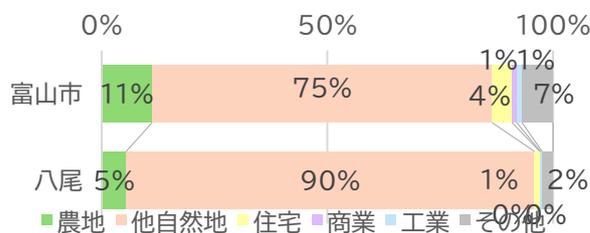
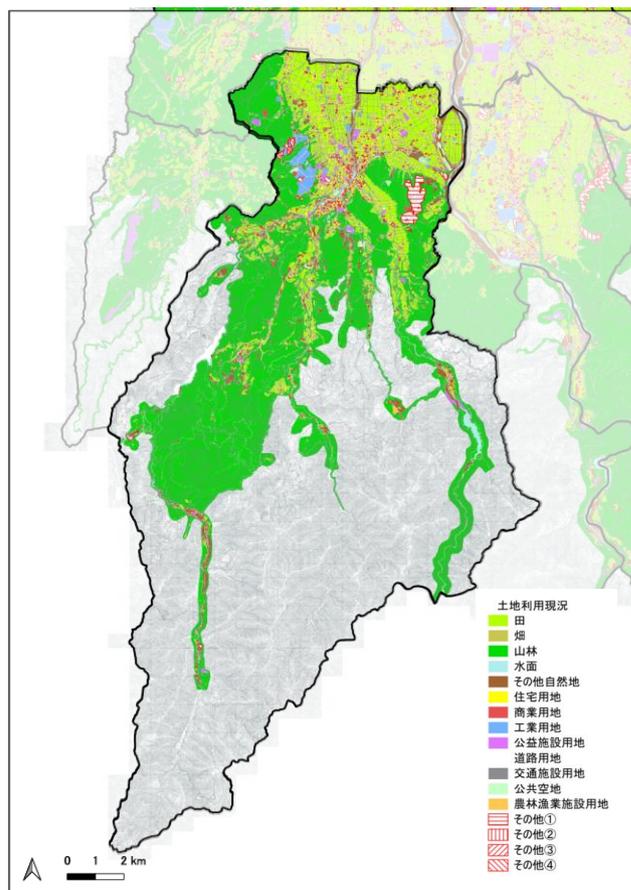
市民の日常的な生活行動は、買い物の約7割、通院の4割以上が自地域内で行っていますが、通勤・通学や文化・スポーツは約3割程度となっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、農業の後継者や祭りなどの伝統文化の担い手が減少する中、交流人口や関係人口を増やす取組が必要となっています。

また、地域資源を維持するために、地域全体で地域づくりを考え、市街地と農村エリアとの連携や魅力を発信するための体制づくりが必要です。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・おわら風の盆、越中八尾曳山祭り
- ・八尾の街並み景観
- ・良好な生活環境
- ・富山八尾中核工業団地
- ・自然を活かしたスポーツ、レジャー施設
- ・豊かな自然、農村環境(大長谷地区ほか)

【20年後の地域の将来イメージ】

共存 まち
自然・文化・食を活かせる 共栄しつづける八尾

2 まちづくりの目標

i) 地域の顔となる旧町地区での歴史的景観の形成

旧町地区では、歴史的街並みや石垣景観の保全・継承を図り、歴史性や地形条件など八尾らしさを活かした歴史的景観の形成を図ります。

また、歴史的景観とともに山林等の自然景観や周辺の教育文化施設を回遊して楽しむことができるよう、歴史的街並みと調和した基盤整備を進めます。

ii) JR 高山本線の活性化に併せた地域拠点の形成

越中八尾駅周辺から旧町地区にかけての市街地を地域拠点として位置付けます。越中八尾駅では、JR 高山本線のサービス水準の向上や駅関連施設の整備、駅へのアクセス手段の充実など活性化と併せて、駅前商店街等で身近な生活サービスの維持・充実を図ります。

旧町地区では、歴史的街並みを活かした観光交流の取組との連携のもと、身近な生活サービスの維持・充実を図ります。

iii) 地域の魅力を活かした関係人口の拡大に向けたまち

祭り等の伝統文化や地域農業等の継承につながる交流人口の拡大に向けて、観光交流を契機に、様々な地域活動に参加してもらおう場づくりを進めます。

iv) 富山八尾中核工業団地を核とした先端技術産業の場の形成

富山八尾中核工業団地は、関連道路の整備によるアクセス性の向上や企業誘致の促進により、先端技術産業の場としての形成を図ります。

v) 井田川を軸とした自然とのふれあい・交流の場

地域の中心部を流れる井田川沿いでは、河川空間の緑の保全・活用や、良好な水辺景観の形成、プールや温浴施設などのレクリエーション機能の充実をはじめ、農業体験の場づくりなど、自然とのふれあいの場としての環境整備を進めます。

また、丘陵・山間地の自然を活かしたスポーツ・レジャー施設を活かして交流促進を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

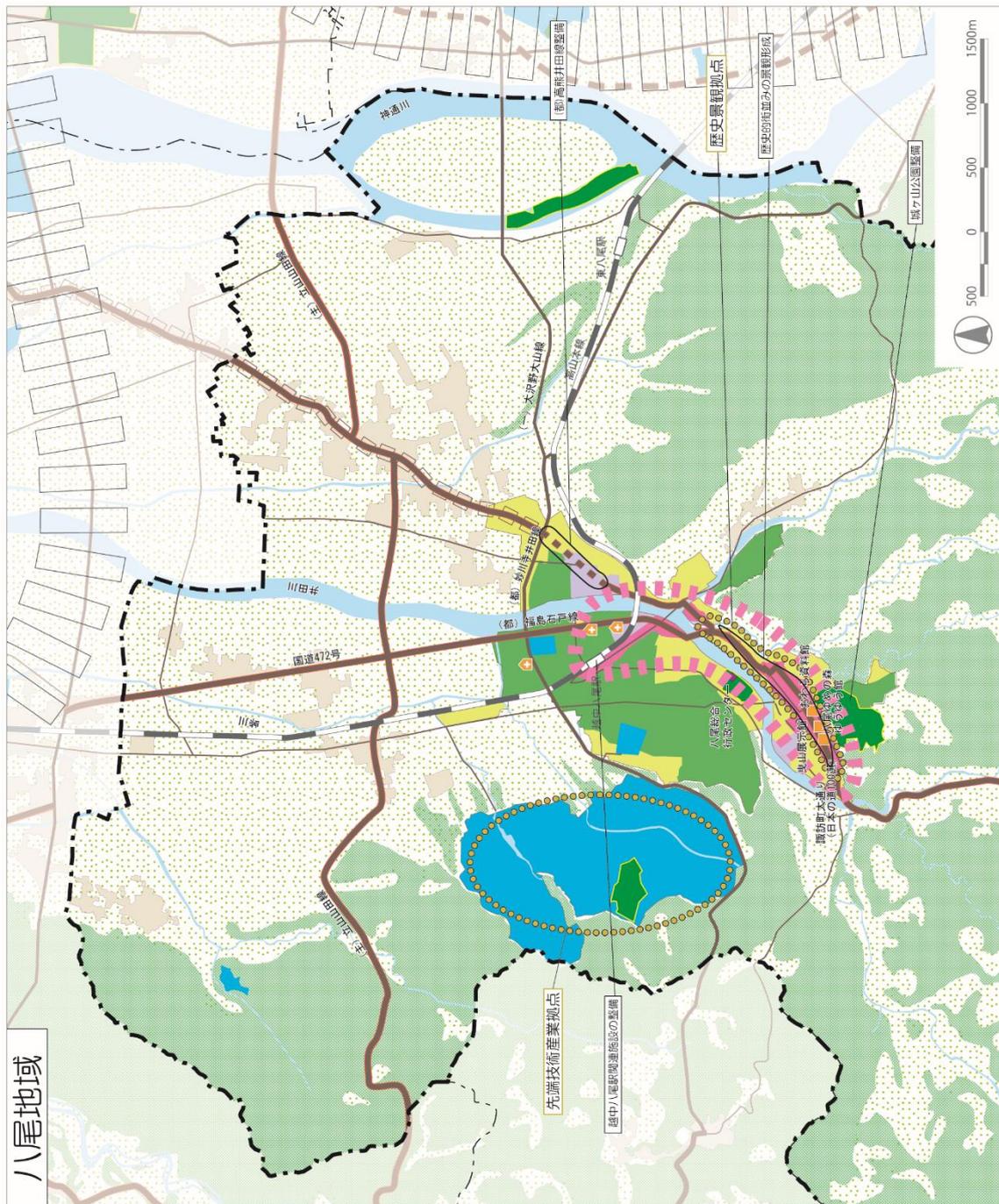
公共交通の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R 高山本線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・ 越中八尾駅では、バスとの連携強化やパーク＆ライド駐車場の整備による利用圏域の拡大を図ります。 ・ 八尾コミュニティバスの効率化を図りながら、生活を支える公共交通サービス機能の維持に努めます。
公共交通志向型居住の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の利活用により、公共交通沿線居住の推進を図ります。
中心市街地をはじめとした拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 越中八尾駅周辺での都市機能の充実を図るとともに、地域資源を活かした都市活動を生む地域拠点の形成を目指します。 ・ 旧町地区は、諏訪町本通りをはじめとした特徴ある街並みや歴史的建造物を活かして、歴史的な街並み景観の形成を図ります。
都市マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 城ヶ山公園を地域拠点における緑の核として維持します。 ・ 神通川沿いでは、神通川水辺プラザを核としたレクリエーション拠点の形成を図ります。 ・ 白木峰周辺や久婦須ダム周辺では、観光・交流機能の充実を進めながら、地域資源を活かしたレクリエーション拠点の形成を図ります。 ・ 峠川では、治水機能の向上と河川環境を整備します。 ・ 崖崩れ等の斜面地での防災対策として、東町等において、急傾斜地崩壊対策を進めます。 ・ 土砂災害の起きやすい箇所では、新たな住宅地整備は抑えるとともに、災害情報の周知を図るなど、災害リスクを回避・軽減するための取組を進めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> ・地域拠点である越中八尾駅周辺及び旧町地区は、地域商業地区として位置付け、歴史的な街並みを活かしながら、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設の充実を図ります。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> ・八尾中核工業団地は、工業地区として位置付け、一層の工業振興を支援しながら、先端技術産業等の立地を誘導します。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> ・福島周辺の市街地は、住宅専用地区として位置付け、福島上野周辺では、戸建住宅を主体とした良好な住環境の形成を図ります。 ・旧町周辺の市街地は、住居地区として位置付け、八尾行政サービスセンターをはじめとした公共公益施設や商業施設の利便性を享受できる住宅地として形成します。 ・JR高山本線以北の井田川沿いは、複合用途地区として位置付け、工業施設やサービス機能等と調和した住宅地として形成します。 ・公共交通沿線居住の推進地区である越中八尾駅周辺は、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の北側に位置する水田を主体とした農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全するとともに、農業体験など、交流の場として活用することを検討します。 ・八尾町黒田、八尾町大杉、八尾町高善寺等の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。 ・自然環境を活かした住まいの提供など、集落維持につながる取組を検討します。 ・地域の南部に広がる山林は、森林環境保全地域として、豊かな自然環境や景観の保全を図るとともに、森林を活かしたレクリエーションの場としての利活用を図ります。

■まちづくり方針図

凡 例	
地域商業地区	工業地区
住宅専用地区	住居地区
複合用途地区	農業保全地域
集落地域	森林環境保全地域
水面	鉄道
主要幹線道路 (今後整備 ※事業中含む)	(補道)
幹線道路	地区幹線道路 (今後整備 ※事業中含む)
都市公園 (今後整備 ※事業中含む)	地域生活拠点
境界	施設
商業 (スーパーマーケット、生鮮食品 取扱のドラッグストア)	金融機能 (銀行、郵便局、JAなど)
医療機能 (内科)	



第12章 婦中地域

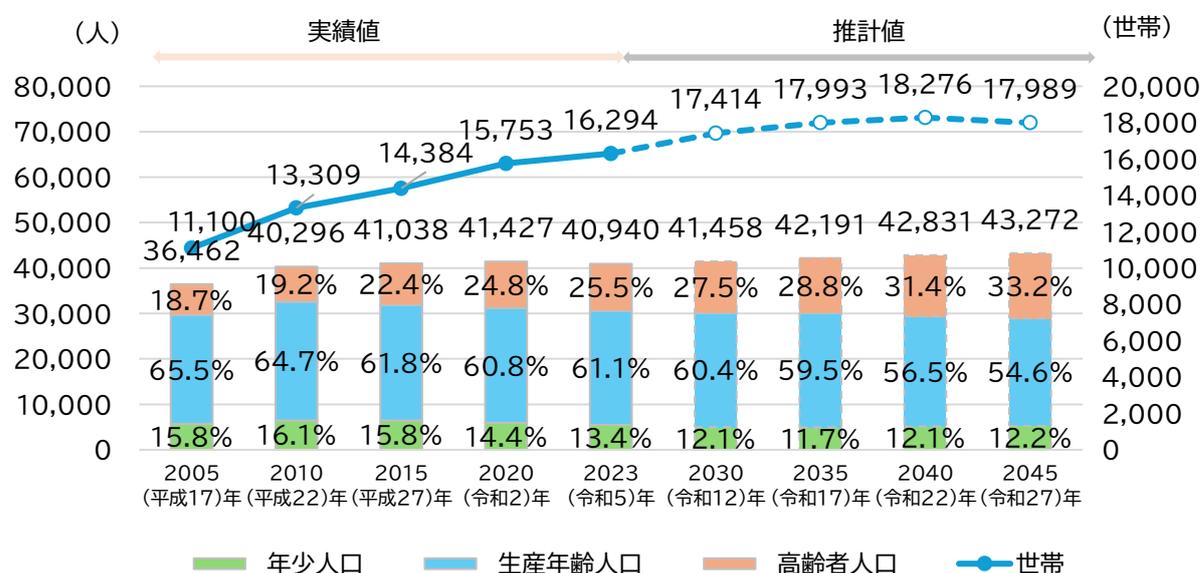
1 地域の概要

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、40,940人と横ばいですが、世帯数は、16,294世帯と増えています。高齢化率は14地域で最も低い25.5%となっています。

将来推計では、人口は微増し、世帯数も2040（令和22）年ころまで増加する見込みです。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、寺院や古墳、城跡などの遺跡や景勝地などが多く存在し、歴史・文化資源の宝庫となっています。

また、ふるさと資料館や「ふちゅう曲水の宴」などのイベントを通して、歴史文化の学習や体験をすることができます。

(3) 自然・景観

都市近郊の豊かな自然や中山間地域から平野部までの多様な環境を活かした果樹園や博物館、植物園、牧場が立地し、自然と身近に触れ合うことができます。

また、地域内に白鳥の飛来地もあり、自然豊かな環境が維持されています。

(4) 公共交通

JR高山本線の婦中鵜坂駅、速星駅、千里駅の3つの駅が立地し、路線バスのほか、地域が主体となった自主運行バスが運行されています。

(5) 土地利用

地域生活拠点である速星駅周辺から国道 359 号の沿線を中心に、住宅と商業用地が混在した市街地が広がり、市街地の周辺には、企業団地が整備され、工業用地が集積しています。また、郊外の農地や山林に大規模な低未利用地が存在しています。

畑や水田などの農地が地域の 3 割を占めており、市平均と比較すると割合が高くなっています。

(6) 防災

河川にはさまれた住宅地が多く、垂直避難が困難となるような洪水の影響もあります。このため、防災拠点等の充実とともに、地域主体の防災行動の強化により、避難等の確実性を高めることが必要です。

(7) 生活行動

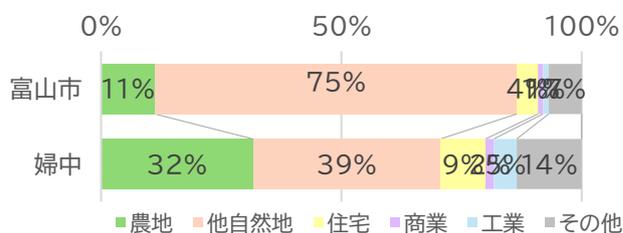
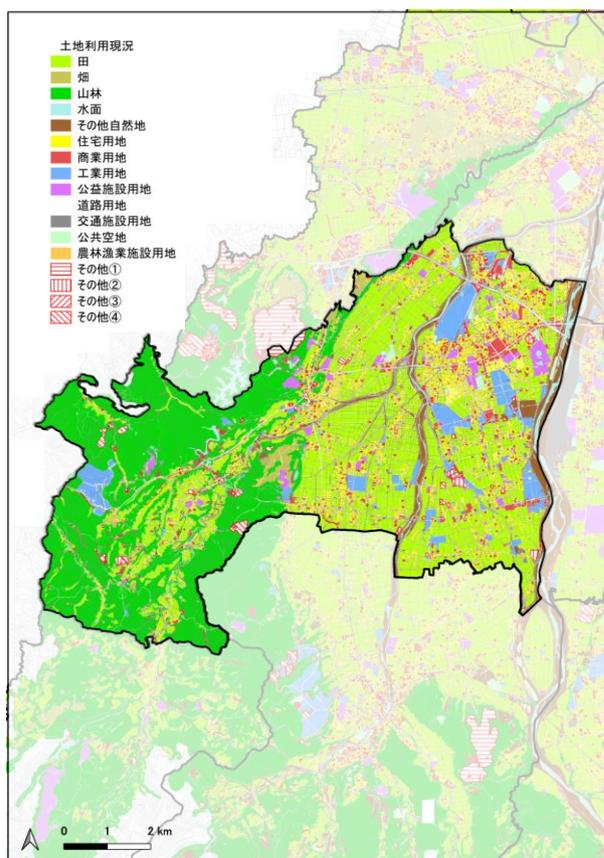
市民の日常的生活行動について、通勤・通学は、3 割が自地域内、6 割が市内（他地域）で行っていますが、それ以外の活動は 6 割以上が自地域内で行っています。

(8) 生活行動

高齢化が進み、地域コミュニティの活動が縮小する中、地域の祭りや歴史資源、自然体験などを通じた交流機会の創出や学生との連携による関係人口の拡大に向けた取組が必要となっています。

また、大規模商業施設や工場の集積を活かした、地域との連携促進や災害時などにおける共助の仕組みづくりが必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・ファボーレ周辺の賑わい
- ・歴史、文化資源の宝庫
- ・豊かな田園、農村環境
- ・速星駅周辺の機能集積、住みやすさ
- ・良好な生活環境やコミュニティの形成
- ・工場の集積

【20年後の地域の将来イメージ】

地域と誇りと自信にみちあふれるまち

2 まちづくりの目標

i) JR 高山本線の活性化に併せた生活拠点の形成

速星駅周辺から大規模商業施設周辺の市街地を生活拠点として位置付けます。速星駅周辺では、JR 高山本線のサービス水準の向上や駅関連施設の整備、駅へのアクセス手段の充実などの活性化と併せて、身近な生活サービスの維持・充実を図ります。

大規模小売店舗周辺では、速星駅周辺とのアクセス環境の改善とともに、生活関連機能の維持・充実等を進めます。また、保健センター周辺は、健康・福祉施設等の立地を活かし、健康福祉の場の形成を図ります。

ii) 公共交通軸となるバス路線の活性化に併せた良好な住環境の形成

都心地区と連絡するバス路線沿線は、公共交通沿線での居住を誘導する地区として、バス利用の快適性の向上など活性化と併せて、良好な住環境の形成を図ります。

iii) 職住が近接した良好なコミュニティのある魅力的な住宅地の維持・形成

下水道等の都市基盤整備や学校、保育所等の生活関連機能の充実、浸水対策の充実により、良好な住環境の維持・形成を図ります。

富山イノベーションパークや婦中企業団地等が立地する職住が近接した利便性の高い地域であり、祭りなど、世代を超えたふれあいの機会・場づくりを通じて、良好な住宅地としてさらなる魅力を高めます。

iv) 自然や歴史を活かしたふれあいの場の形成

農を活かしたレクリエーション施設や植物園や牧場などの施設、史跡王塚・千坊山遺跡群や城址などの歴史資源を活かして、自然や歴史学習の場づくり、里山の利活用や自然公園等の充実を進めるとともに、周辺の自然環境の保全を図ります。

3 まちづくりの方針

(1) 取組方針

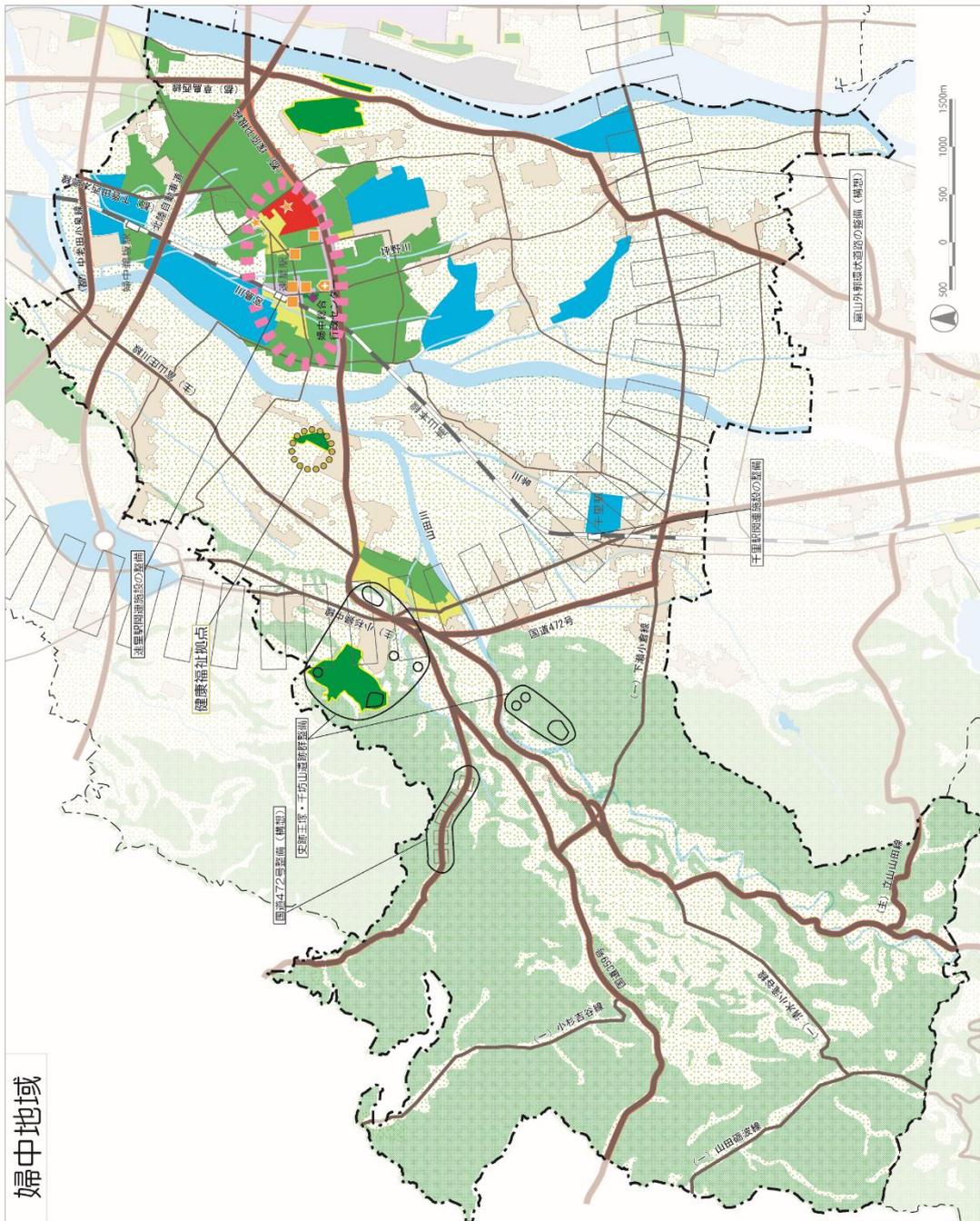
<p>公共交通の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JR高山本線の活性化により、利便性向上と持続可能性の確保を図ります。 ・速星駅では、バスとの連携強化やパーク&ライド駐車場の整備による利用圏の拡大を図ります。 ・都心と連絡するバス路線は、公共交通軸としての充実を進め、利便性の向上を図ります。 ・婦中コミュニティバスの再編など効率化を図りながら、生活を支える公共交通サービス機能の維持に努めます。 ・シェアサイクルなどの身近な移動手段の充実など、レクリエーション施設や歴史資源の回遊性の向上について検討します。
<p>公共交通志向型居住の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進による居住誘導や既成市街地（低未利用地）の都市リノベーションの促進により、公共交通沿線居住の推進を図ります。 ・公共交通の活性化に合わせた速星駅周辺の居住環境の整備を図ります。
<p>中心市街地をはじめとした拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速星駅周辺において、大型商業施設などの商業や医療などの都市機能の維持や充実を図り、市民の豊かな生活を支える生活拠点を形成します。 ・井田川左岸に広がる遺跡や富山県立ねいの里などの動植物とのふれあいが可能な田園地域や里山、富山県立中央植物園の機能により、市民の余暇活動や観光目的での利用が可能な生活拠点を形成します。
<p>都市マネジメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神通川緑地や富山県中央植物園の周辺に広がる、広場やスポーツ施設により、スポーツや自然学習など多様な余暇活動の需要に応えるレクリエーションの場の形成を図ります。 ・史跡王塚・千坊山遺跡群は、史跡の恒久的な保全や、歴史学習の場としての活用に努めます。 ・保健センターと羽根地区公園（羽根ピースフル公園）を含む一帯は、健康・福祉機能の充実により、健康福祉の場の形成を図ります。 ・井田川左岸に広がる田園地帯や里山では、営農や動植物の環境を維持・形成します。 ・宮島川、峠川、坪野川、山田川、赤江川、井田川、田島川、磯川では、治水機能の向上と河川環境を整備します。 ・洪水ハザードを踏まえ、水害に強いまちづくりに努めます。

(2) 土地利用の方針

商業系	<ul style="list-style-type: none"> 生活拠点である速星駅周辺、大規模商業施設周辺は、広域商業地区として位置付け、買い回り品に加えて、最寄り品小売業や金融機関、公共公益施設も充実した魅力ある商業地区として形成します。
産業系	<ul style="list-style-type: none"> 富山空港周辺や JR 高山本線沿線の工業団地等は、交通利便性を活かした工業地区として位置付け、製造業や先端技術産業の集積を図ります。
住宅系	<ul style="list-style-type: none"> 速星駅周辺や（都）塚原羽根線の沿道等を除く市街地は、戸建住宅を主体とした住宅専用地区として位置付け、良好な住環境の形成を図ります。 速星駅周辺や広域商業地区周辺は、一定規模の商業機能が立地可能な住居地区として位置付け、利便性と快適性を兼ね備えた住宅地として形成します。 （都）塚原羽根線の沿道は、複合用途地区として位置付け、沿道の商業機能等と調和した住宅地として形成します。 公共交通沿線居住の推進地区である速星駅周辺やバス路線の沿線では、公共交通の活性化や生活関連機能の充実と併せて居住の推進を図ります。
農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> 市街地を取り囲む農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 熊野地区、宮川地区、神保地区、音川地区の集落地域は、人口及び既存コミュニティを維持するための良好な生活環境を形成します。 地域の西部に広がる山林や田園は、豊かな自然環境や景観の保全を図るとともに、歴史や文化、森林、動植物とのふれあい環境を活かしたレクリエーションの場としての利活用を図ります。

■まちづくり方針図

凡	例
広域商業地区	赤
沿道商業地区	オレンジ
工業地区	青
住宅利用地区	黄緑
住居地区	緑
複合利用地区	黄
農業集約地域	黄緑
気象地域	黄
森林環境保全地域	緑
水面	水色
鉄道	黒線
広域幹線道路・主要幹線道路 (今後整備 ※事業中含む)	太い黒線
(備後：広域幹線道路) (備前：主要幹線道路)	細い黒線
幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) (備前)	太い黒線
地区幹線道路 (今後整備 ※事業中含む)	細い黒線
都市公園等 (今後整備 ※事業中含む)	緑の帯
地域生活拠点	赤い点
地域区分	点線
施設	★
商業施設(銀行、郵便局、JAなど)	オレンジ
医療機能(内科)	赤い点



婦中地域

第13章 山田地域

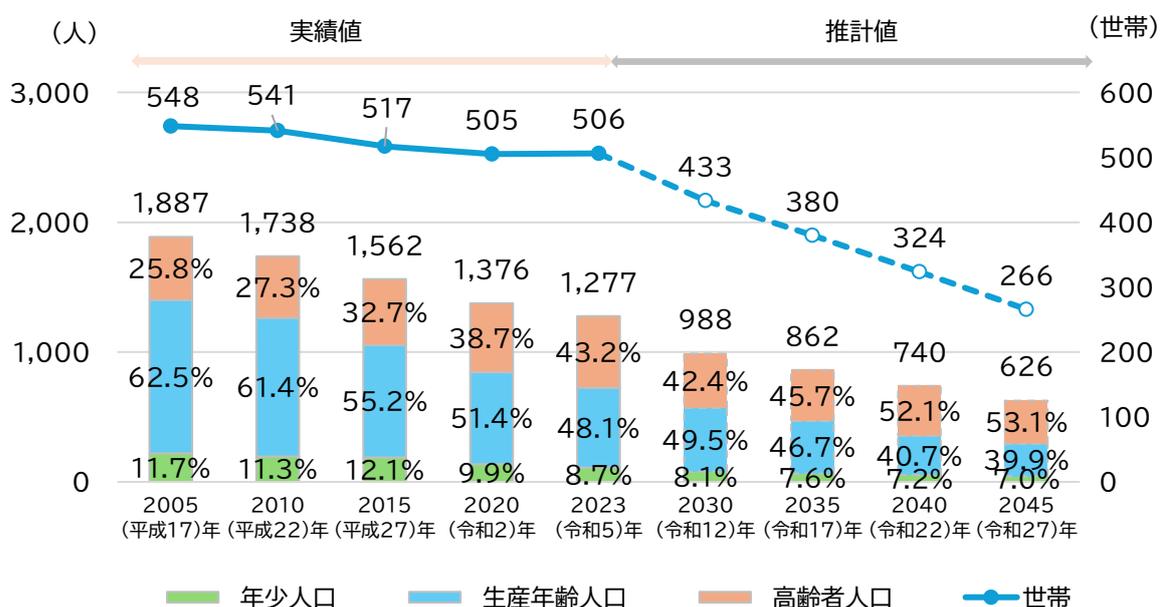
1 地域の現況

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、1,277人と減少し、高齢化率が43.2%と14地域で2番目に高くなっています。また、世帯数は、506世帯となっています。

将来推計では、人口、世帯ともに急激な減少が見込まれています。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、ブナ林や大杉、大桜をはじめとする自然資源が点在し、城跡などの歴史遺産があります。

スキー場やキャンプ場など、自然を活かした大規模なレクリエーション施設などが立地し、野外アクティビティを体験できます。

(3) 自然・景観

棚田の原風景が広がり、高原の台地が育んだ特産品を販売する農産物直売所が立地しています。

また、自然を活かしたスポーツ、レジャー施設を活用し、関係人口の拡大に向けた交流事業が進められており、牛岳からは雄大な眺望景観を楽しむことができます。

(4) 公共交通

生活に密着したコミュニティバスが生活圏や主要施設をカバーしています。

(5) 土地利用

地域内の大部分が自然的土地利用を占め、住宅用地はごく一部となっています。

(6) 防災

中山間地域に位置し、土砂災害やため池氾濫の影響が広くあります。このため、土砂災害回避のための土地利用対策を推進するとともに、地域主体の防災行動の強化により避難等の確実性を高める必要があります。

(7) 生活行動

市民の日常生活は、買い物の約9割、通勤・通学の約7割が市内の他地域に行っています。また、その他の買い物の1割以上の方が、市外に行っています。

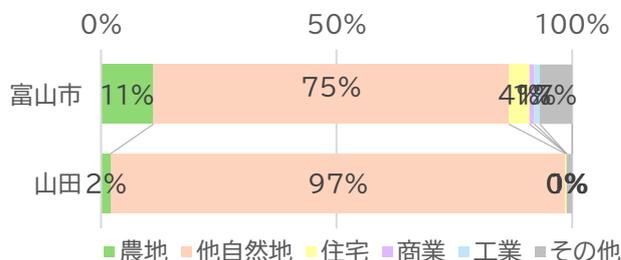
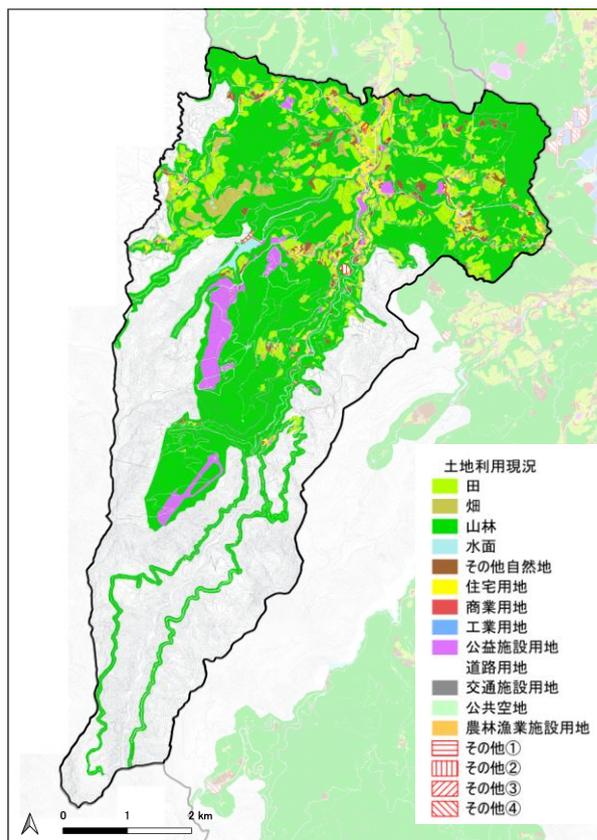
なお、周辺の婦中地域や八尾地域へ日常的に行き来が多く、地域の結びつきが強くなっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、農業の後継者不足や地域コミュニティが衰退する中、移住者が一定数おり、農地や空き家の確保など、外部の人を受け入れる地域づくりが必要となっています。

また、中山間地域の魅力発信による関係人口の拡大や既存施設や跡地活用した体験学習の実施などの取組みが必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・豊かな田園、農村環境
- ・付加価値の高い農作物の栽培
- ・自然に囲まれた良好な生活環境
- ・自然を活かしたスポーツ、レジャー施設
- ・一流の田舎として、移住者が増加
- ・富山を一望できる眺望景観

【20年後の地域の将来イメージ】

幸せ日本一！の山田

2 まちづくりの目標

i) 豊かな自然を活かした定住環境の整備

恵まれた自然景観を活かすとともに、地域の生活を支える交通手段の維持・確保や周辺地域と結ぶ骨格的な道路網の整備等により、人口の維持やUIターン者等の受入れのための定住環境の整備を図ります。

ii) 四季を通じて賑わう長期滞在型のレクリエーションの場の形成

恵まれた自然環境やスキー場、キャンプ場などのレクリエーション施設を活かし、多様な観光ニーズに対応した滞在交流機能や機会の充実、農業体験の機会・場づくりなどを通じて、都市と農山村との交流の促進による地域活性化を進め、市民の余暇活動や来街者の長期滞在型のレクリエーションの場の形成を図ります。

iii) 牛岳山麓の森林や棚田景観などの豊かな自然環境の保全・継承

牛岳山麓をはじめとする森林や山田川沿いの棚田景観は、災害の防止や特徴的な景観の形成など森林・農地のもつ多面的な機能を踏まえた適切な環境の保全・整備を図るとともに、自然休養の場として、観光との一体的な利用を進め、豊かな自然環境の保全・継承を図ります。

3 まちづくりの方針

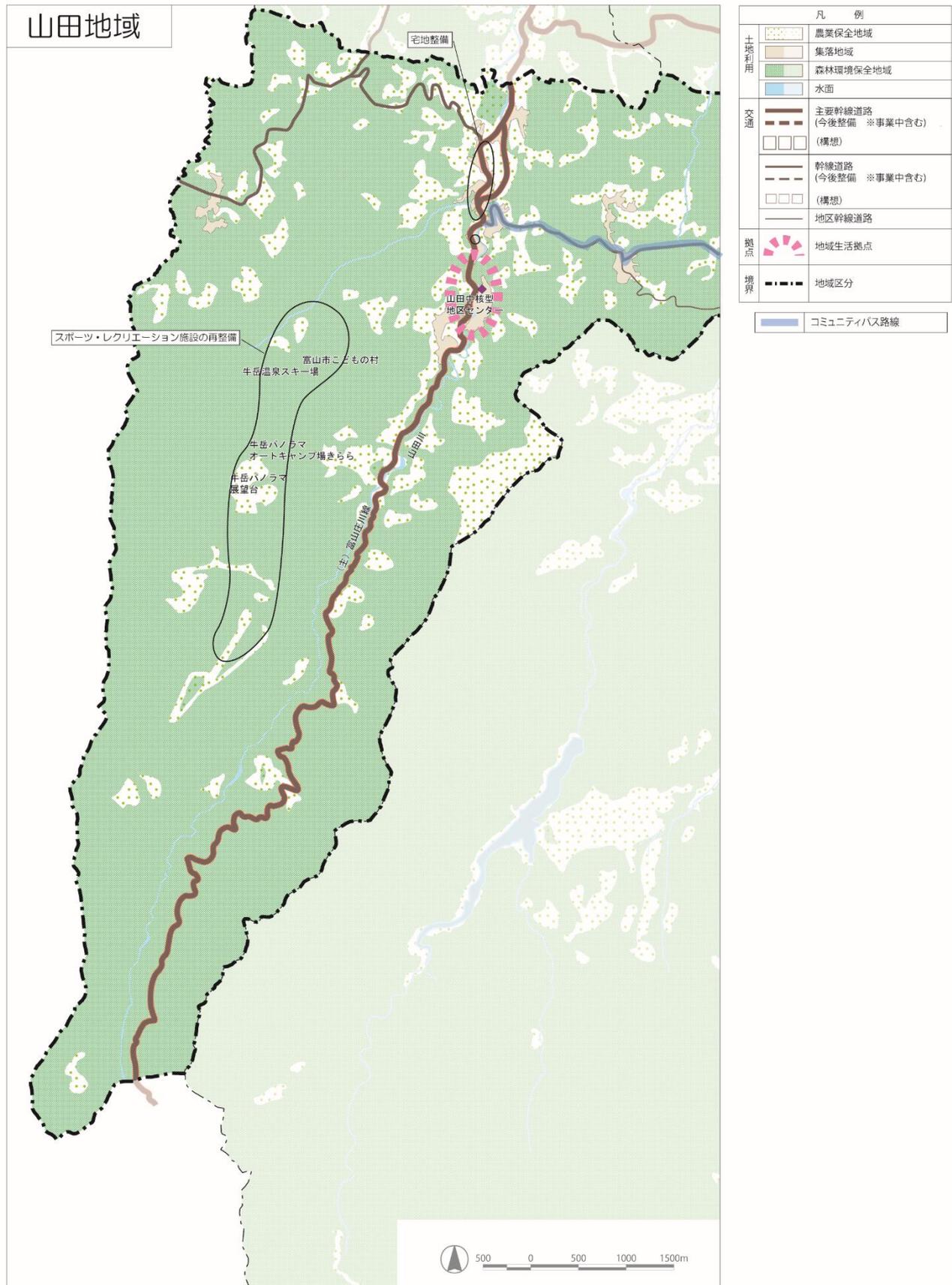
(1) 取組みの方針

公共交通の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する八尾地域の越中八尾駅を結ぶ山田コミュニティバスの再編などの効率化を図りながら、生活を支える公共交通サービス機能の維持に努めます。
公共交通志向型居住の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進や既成集落（低未利用地）の利活用促進と山田コミュニティバスとの連携により、公共交通指向型居住の推進を図ります。
拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の機能強化等により市民の余暇や来街者の長期滞在型レクリエーションの場の形成を図り、特徴的な自然環境や景観、食を背景とした山間部ならではの都市活動を生む地域拠点の形成を目指します。
都市マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・牛岳山麓とスキー場及び牛岳温泉健康センター周辺を中心としたスポーツ・レクリエーション施設は、管理体制や機能強化を推進します。 ・棚田景観等の豊かな自然環境や景観の保全を図ります。 ・山田川では、治水機能の向上と河川環境を整備します。 ・山間地での防災対策として、山田川流域の数納地内等での砂防対策や北山地区等での地すべり対策を進めます。 ・土砂災害の起きやすい箇所では、新たな住宅地整備は抑えるとともに、災害情報の周知を図るなど、災害リスクを回避・軽減するための取組を進めます。

(2) 土地利用の方針

農業・自然系	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活拠点である山田中核型地区センター周辺は、生活に密着した商業等の生活関連機能の維持に努めます。 ・その他の集落地域では、既存コミュニティの維持に努め、良好な生活環境を形成します。 ・特徴的な景観を形成している棚田をはじめとした中山間地域に点在する農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。 ・山林は、森林環境保全地域として、豊かな自然環境や景観の保全を図るとともに、森林を活かしたレクリエーションの場としての利活用を図ります。
--------	--

まちづくり方針図



第14章 細入地域

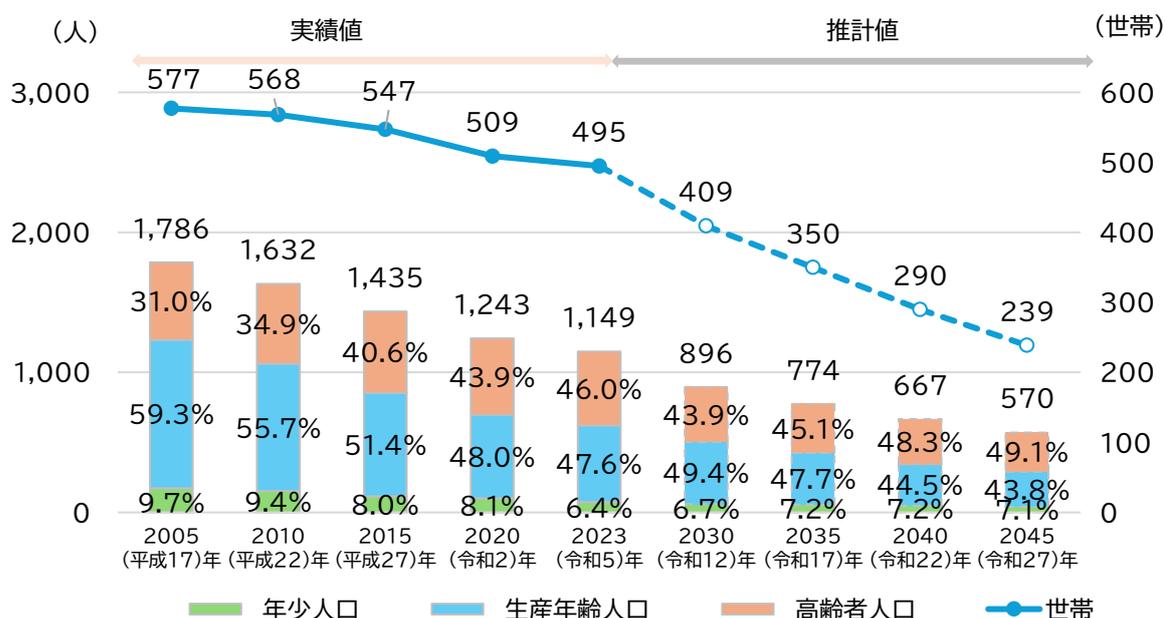
1 地域の現状

(1) 人口・世帯数

2023（令和5）年の人口は、1,149人と減少し、高齢化率が46%と14地域で最も高くなっています。また、世帯数は、495世帯となっています。

将来推計では、人口、世帯ともに急激な減少が見込まれています。

■人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し



(2) 歴史・文化

地域内には、史跡や猪谷関跡のほか、猪谷関所館などが立地しており、歴史文化の拠点となっています。

また、古くから伝わる獅子舞やお祭りが地域の伝統文化として残っています。

(3) 自然・景観

神通川沿いの自然を活かした温泉施設やキャンプ場、道の駅があり、観光や自然のアクティビティを楽しむことができ、市民の余暇や来街者の長期滞在などでの利用が進んでいます。

また、自然が作り上げた溪谷美「神通峡」では、四季折々の豊かな自然景観に出会うことができます。

(4) 公共交通

JR高山本線の楡原駅と猪谷駅が立地しています。

(5) 土地利用

地域内の大部分が自然的土地利用を占め、住宅用地はごく一部となっています。

(6) 防災

中山間地域に位置し、土砂災害の影響があります。このため、土砂災害回避のための土地利用対策を推進するとともに、地域主体の防災行動の強化により避難等の確実性を高めることが必要です。

(7) 生活行動

市民日常的な買い物の9割以上、通勤・通学の7割以上が市内の他地域に行っています。

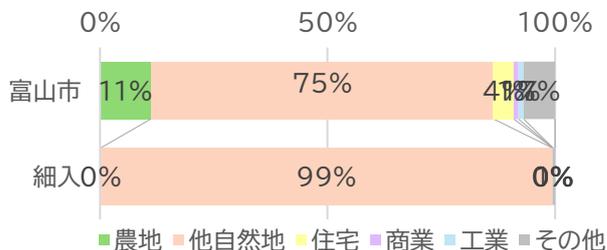
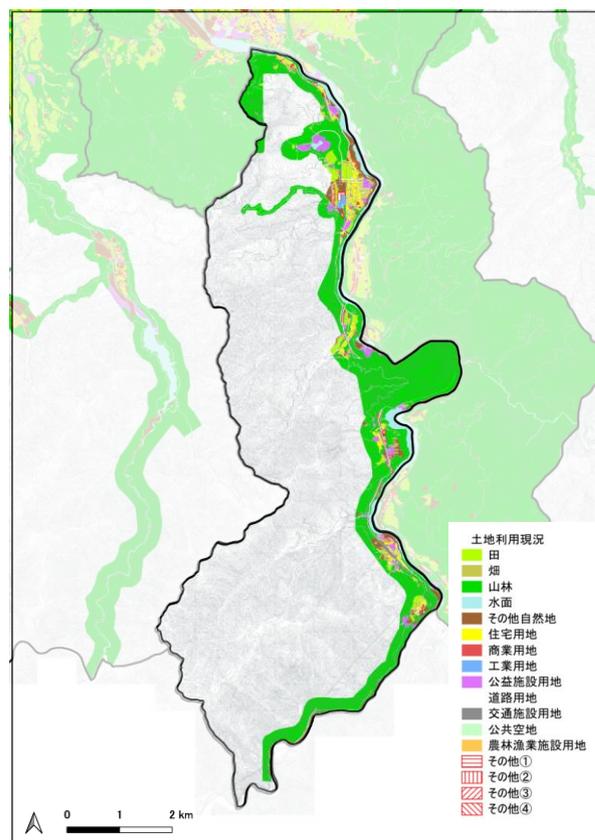
なお、周辺の大沢野地域へ日常的に行き来が多く、地域の結びつきが強くなっています。

(8) 住民まちづくり、地域資源

人口減少により、地域コミュニティが衰退する中、獅子舞の人材確保や指導者の育成をはじめ、地域の伝統文化を継承するための学習機会の創出などが必要となっています。

また、観光資源のさらなる魅力創出に向け、若年層の市民などとの連携や環境整備が必要となっています。

■土地利用現況と面積比率



■市民ワークショップでの提案

市民ワークショップでの提案

【地域の魅力】

- ・地域の伝統文化や豊富な文化資源
- ・豊かな自然景観
- ・豊かな自然による観光、レクリエーション資源の充実
- ・公共交通網の充実
- ・高齢者がいきいきと過ごせる気ままな暮らし

【20年後の地域の将来イメージ】

若者が集うまち

2 まちづくりの目標

i) JR 高山本線の活性化に併せた楡原駅・猪谷駅周辺の生活関連機能の維持

楡原駅及び猪谷駅周辺は、JR 高山本線のサービス水準の向上とともに、駅関連施設や飛騨・神岡方面へのバス路線との接続環境、周辺の生活関連機能の維持に努めます。また、楡原駅周辺において、豊かな自然環境と駅への近接性等を活かした定住環境の維持を図ります。

また、移動手段としてだけでなく、観光交流資源として、JR高山本線の魅力向上について検討します。

ii) 神通峡の峡谷美等の自然とふれあう観光・レクリエーションの場の形成

県定公園神通峡等に代表される自然環境や、旧飛騨街道に由来する歴史文化、割山森林公園をはじめとしたレクリエーション施設を活かし、水と緑の自然環境を身近に体験できる観光・レクリエーションの場の形成を図ります。

iii) 地域高規格道路の整備

都心部及び高山方面との連絡を強化するとともに、地域住民にとって安全で安心できる道路交通を確保するため、富山高山連絡道路を整備するとともに、IC と連絡する関連道路を整備します。

iv) 飛騨山地に連なる森林などの豊かな自然環境の保全・継承

飛騨山地に連なる森林は、災害の防止や特徴的な景観の形成など森林のもつ多面的な機能を踏まえた適切な森林環境の保全・整備を図るとともに、余暇活動の場として、観光との一体的な利用を進め、豊かな自然環境の保全・継承を図ります。

3 まちづくりの方針

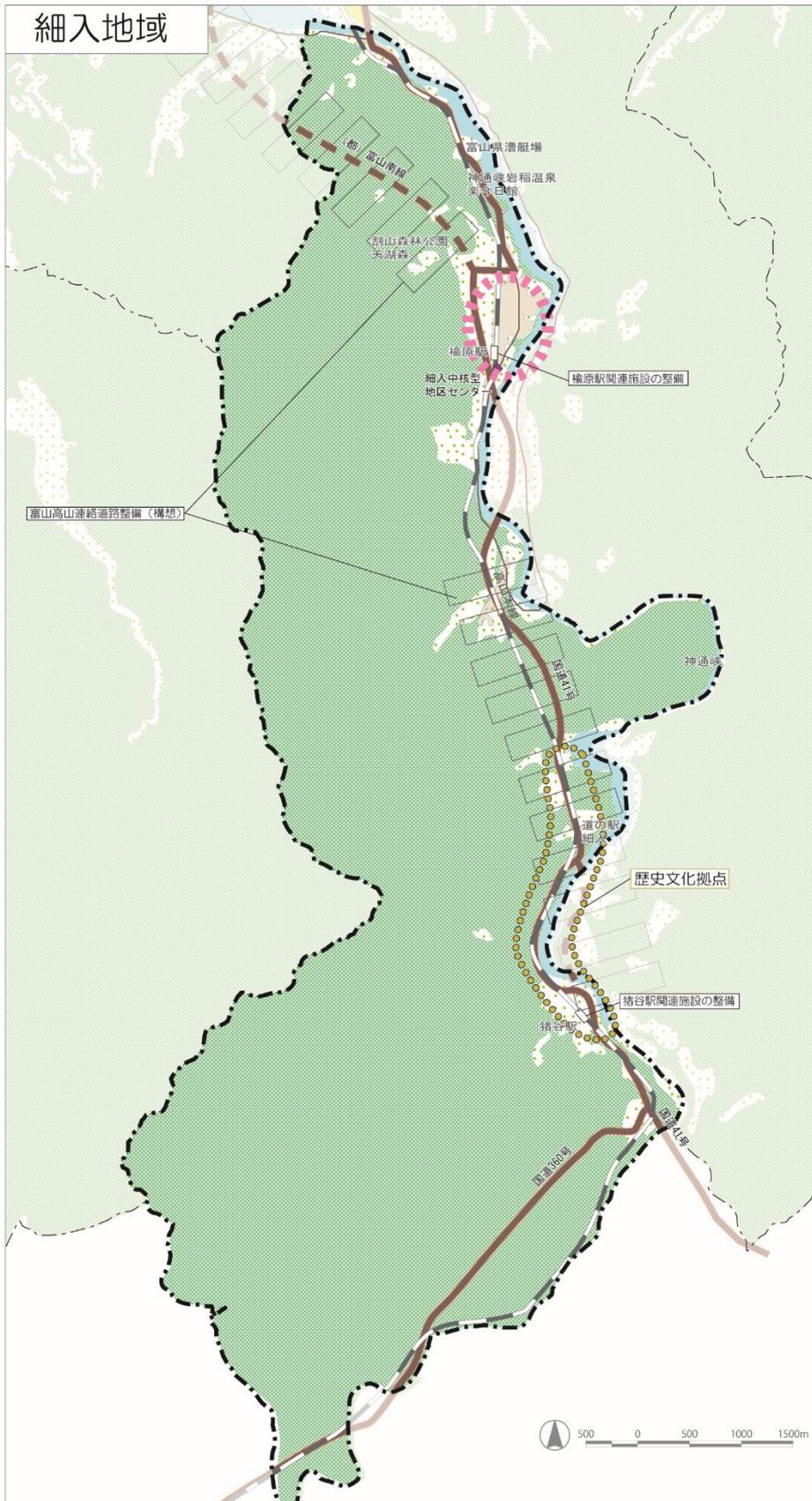
(1) 取組みの方針

公共交通の活性化	<ul style="list-style-type: none">・鉄軌道（JR高山本線）の活性化により、利便性向上と持続性の確保を図ります。・猪谷駅や楡原駅では、駅関連施設の維持に努めます。特に猪谷駅は、飛騨・神岡方面の公共交通での玄関口となっていることから、鉄道とバス路線の接続環境を維持します。
公共交通志向型居住の推進	<ul style="list-style-type: none">・中古住宅など既存ストックの利活用・流通促進や既成集落（低未利用地）の利活用促進と JR 高山本線との連携により、公共交通指向型居住の推進を図ります。
拠点の形成	<ul style="list-style-type: none">・割山森林公園（天湖森）や岩稲ふれあいセンター（楽今日館）など交流施設の活用と、神通峡の豊かな自然環境とを活かした観光やレクリエーションの場の形成などにより、市民の余暇や来街者の観光目的の都市活動を生む地域拠点の形成を目指します。
都市マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none">・国道41号富山高山連絡道路の整備を促進します。・観光分野において、旧飛騨街道や猪谷関所館などの歴史文化資源や JR 高山本線の活用を促進します。・大規模な橋梁なども多くあることから、人口減少に対応した社会インフラの適正な維持管理に努めます。

(2) 土地利用の方針

農業・自然系	<ul style="list-style-type: none">・地域拠点である楡原駅周辺は、公共公益施設など生活関連機能の維持に努めます。・楡原駅北側の駅徒歩圏では、周辺の自然環境や鉄道利便性、生活関連機能の集積を活かした定住環境の形成を図ります。・集落地域では、既存コミュニティの維持による良好な生活環境を形成します。・農地は、農業保全地域として、虫食いの農地転用を抑制し、良好な営農環境を保全します。・山林は、森林環境保全地域として、豊かな自然環境や景観の保全を図るとともに、森林を活かしたレクリエーションの場としての利活用を図ります。
--------	---

まちづくり方針図



凡 例	
土地利用	住居地区
	農業保全地域
	集落地域
	森林環境保全地域
交通	水面
	鉄道
	広域幹線道路・主要幹線道路 (今後整備 ※事業中含む) (構想)
	地区幹線道路
拠点	地域生活拠点
	地域区分